

籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

〔解〕本條ハ選舉委員選任法ヲ定ムルモノニシテ其選舉委員ト稱スルハ選舉長ヲ助ケテ選舉ノ事ヲ取扱フモノトス

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算ス可シ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

〔解〕本條ハ選舉會ノ第一着ニ爲ス可キ事務ヲ示シタルモノトス而シテ其事務ハ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スルニ在リ此ニ投票人ト云フハ選舉人ノ謂ニアラスシテ投票ノ當日來會シ投票ヲ爲シタルモノヲ云フ此總數ハ投票明細書ニテ知ル可シ若シ此計算ニ相違ヲ生シテ投票人ノ數多キカ投票ノ數多キヲ發

見シタルキハ其ノ旨ヲ選舉明細書ニ記載セサルハカラス蓋シ斯ノ如キ差異ヲ生スルハ甚ク疑ハシキ所ニシテ或ハ町村長又ハ立會人カ不正ヲ行ヒタルヤモ知ルヘカラス故ニ之ヲ書留メ置クヲ要スルナリ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢ス可シ

〔解〕本條ニハ第二ノ事務ヲ示ス即チ投票ヲ點檢ズルト是ナリ點檢トハ唯其ノ投票ノ數ヲ計算スルノ謂ニアラスシテ何人ヲ選舉シタルヤヲ取調ヘテ其ノ得點ヲ計算スルナリ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

〔解〕本條ハ選舉會公行ノ事ヲ定ムルモノナリ

各選舉區トハ如何ナル意味ニ解スヘキ乎其各ナル文字ヲ用井ダ

ルヨリ觀レハ甲區ノ選舉會ニ乙區ノ選舉人ノ參觀スルヲ得ルコトヲ示シタルモノナル可シ而シテ其選舉會ニ參觀ヲ許スハ唯各選舉區ノ選舉人ニ限リテ其ノ他一般ノ者ニ之ヲ許サ、ルハ何故ソヤ蓋シ選舉權ナキ者ハ之ニ參觀スルモ決シテ利益アルニアラズ唯喧噪雜踏シテ其ノ選舉會ヲ妨クルニ過キス然レハ選舉人ハ其ノ選舉會ノ公正ナルヤ否ヤヲ監督スルノ利益アルヲ以テ之ヲ許シタルナリ然レハ其ノ利益アルハ唯其ノ自己ノ區ニ限ル其ノ他區ノ選舉會ニモ參會スルヲ許シタルノ理由ニ至テハ余輩之ヲ解スルニ苦シム唯其ノ選舉ノ成ルヘク公示セラレシテ欲シタルモノト解スルノ外ナカルヘシ

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタ

ルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニアラス

〔解〕此條ハ投票ノ無効ト爲ル場合ヲ定メタルモノナリ左ニ各場合ヲ説明ス可シ

(一) 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票○此事ハ既ニ第四十一條ノ解釋中ニテ述ヘタリ今此項ニヨルヘキ者ヲ示サハ(第一)ハ無資格者即チ第二章ノ條件ヲ具ヘス又ハ第四章ニ當ル者はナリ此者ハ本來選舉權ヲ有セサルモノナルカ故ニ假令誤テ選舉人名簿中ニ記載スルコトアルモ猶ホ其投票ハ無効ト爲ルモノトス(第二)ハ選舉人ノ過失ニヨリ記載セラレサル者即チ選舉者カ第二十條ノ手續ヲ怠リタルニヨリ其記載ニ漏レタル者はナリ(第三)ハ選舉人名簿調製者過テ脱漏シタル者トス此終ノ二ツノ者ハ人名簿公示ノ日其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ而シテ其改正ノ件ニ付キ訴訟ヲ起シ改正スヘキモノナリトノ裁判官渡書ヲ得テ參會スルキハ假

令人名簿中記載ナシト雖モ投票ノ權ヲ有スルモノナリ(第四十一條)是本項ニ但書ヲ附スル所以ナリ

(二) 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ○此事ハ第三十八條ニ於テ説明シタリ

(三) 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ○選舉人ノ記名ナキモノハ何人ノ投票シタルモノナルヤ分明ナラズ然レトモ之ヲ有効トセハ不正ノ投票ヲ誘唆スルニ至ル故ニ之ヲ無効ト爲シタルナリ然レモ茲ニ記名ナキモノニ限り其住所ノ記載又ハ捺印ナキモノハ之ヲ無効トセス蓋シ此等ハ其眞偽ヲ證明スル頗ル容易ニシテ直ニ不正ト爲シ廢棄スルニ及ハサレハナリ

(四) 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ○投票ノ要件ハ皆之ヲ備フルモ其被選人ニシテ資格ナキトキハ之ヲ有効ト爲スモ毫

モ其効ヲ生セズ故コ之ヲ無効トシテ廢棄ス然レモ連名投票第四  
 十條ノ場合ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモ  
 ノト爲セリ若シ又一人ノ議員ヲ選フコ數人ヲ列記シ其中資格ア  
 ル者アルキハ如何此場合コ於テハ第五十四條第一項ノ規則ヲ援  
 引シ其無資者ヲ除キ資格有ル者ヲ當選者トス若シ資格アル者二  
 名以上ヲ記スルキハ末尾ヨリ順次引去ルヘキモノトス

(五) 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選  
 人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ○此項ニ記スル所ハ其投票ヲ  
 有効ト爲シ得ヘカラサルコヨリ止ムヲ得ス無効ト爲スモノトス  
 故ニ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知  
 スルコトヲ得ルモノ(例ヘハ次郎ヲ治郎ト誤リ伊東ヲ伊藤ト誤ルノ  
 類)ノ如キハ之ヲ無効ナラシメス又或ハ羅馬字ヲ以テ記載シタル

如キモ其明瞭ヲ缺クニアラサル以上ハ有効トモサルヘカラス

(六) 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモ  
 ノ○例ヘハ被選人ノ姓名ヲ記シ其次ニ「右選舉致候也」ト記載スルカ  
 如シ然レモ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所  
 ヲ附記シ又ハ敬稱様又ハ殿ト云フカ如シヲ用非タルモノハ之ヲ  
 無効トセス此項ニ記スル如キ他ノ文字ヲ記載シタル者ハ何故ニ  
 之ヲ無効ト爲スカ余輩ハ其理由ヲ知ルニ苦シム何トナレハ何等  
 ノ文字ヲ記入スルモ選舉人及被選人ノ何人タルヲ知ルニ足リテ  
 毫モ差支ナキ以上ハ之ヲ有効ト爲シテ決シテ不可ナルヲ見ス況  
 シヤ我國人ノ如キ未ダ斯カル事ニ馴レサルヲ以テ其初ニ於テハ  
 不都合ナル文字ヲ記入シ乱雜ナル書キ様ヲ爲スコトハ田舎僻地ニ  
 於テ往々免レサル所ナルニ於テオヤ若シ一々此等ヲ索討シテ無

効ト爲スニ於テハ充分完全ナル選舉ヲ爲シ得ヘカラサルモ亦知ルヘカラサレハナリ

以上ノ外猶ホ左ノ如キ投票ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノト信ス

(一) 同一ノ選舉人ノ記名セル投票ニ通以上アルキ○此場合ニハ其事實ヲ審査シ其眞偽ヲ按シ何レカ一方ヲ無効トセサルヘカラス若其眞偽ヲ辨スヘカラサル乎又ハ共ニ選舉人ノ自筆ニ係ルモ其記スル所ノ被選人ヲ異ニスルキハ双方共ニ無効ノモノトス

(二) 被選人ノ記載ヲ塗抹改竄シ之ニ認印ナキモノ○此等ヲ以テ猶ホ有効トセハ不正ノ行ハル、弊害ヲ惹起スヲ以テ亦之ヲ無効トセサルヘカラス

此二ノ場合ニ於テハ之ヲ無効トスヘキハ勿論ナリト雖モ之ヲ無効ト爲スハ甚ダ重大ナル事ナレハ輕々ニ斷定スルヲ得ス必ス次

條ノ手續ニ從ヒ之ヲ決スヘキモノトス

**第五十二條** 投票効力ノ有無ニ付疑義アルキハ投票委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決ス此決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

[解]此條ハ投票ノ有効ナルヤ無効ナルヤニ付疑アルトキ其決定法ヲ定ムルモノヨシテ此條ニヨレハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘキモノトセリ選舉長ハ選舉委員ノ意見ヲ聞クトヲ要スト雖モ必スシモ其意見ニ從フヲ要セサルモノトス然レモ其意見ヲ聞カスシテ選舉長獨斷ニ之ヲ決スルキハ其決定ハ無効ノモノト謂ハサルヘカラス

此選舉長ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ストアルヲ以テ後ニ至リテ異議ヲ申立テ訴訟ヲ起スハ免モ

角當日其場ニ於テハ假令不當ノ決定ナルコモセヨ決シテ異議ヲ申立ツルヲ能ハス選舉長ノ決定ニ默從セサルヘカラス是選舉者ニ取テハ甚ク不利ノ事ナリト雖モ蓋シ已ムヲ得サルモノナリ何トナレハ若シ其場ニ於テ異議ノ申立ヲ聽許スルキハ選舉會ハ其日ヲ以テ終ルヲ能ハス爲メニ種々ノ弊害ヲ生シ又幾多ノ差支ヲ生スルヲ以テナリ

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

〔解〕此條ハ無効投票ノ處分法ヲ定ムルモノナリ抹線トハ——ヲ云フ之ヲ一ヶ年間保存スルヲ要スルハ此無効ノ投票ニ付テハ屢々異議ヲ申立テ訴訟ヲ起スコアルヲ以テナリ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉ス可キ定員ヨリ多キ被選人ノ

姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉ス可キ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

〔解〕此條ニハ投票ノ定員ニ超エ又ハ定員ニ足ラサル場合ノ點檢法ヲ定ム

例ヘハ一名ヲ選舉スヘキニ甲乙ト列記シタルキハ其乙ヲ除キ甲ノミヲ當選者ト然ラ然レモ若シ甲者無資格ナルキハ乙ヲ當選者ト爲スヘキハ勿論ナリトス

又例ヘハ二人ヲ選フヘキニ甲トノミ記スルキハ甲ノ投票ハ無効ト爲ルコトナシ是第二項ノ定ムル所ナリ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存

シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

〔解〕此條ハ投票保存ノ事ヲ定ムルモノニシテ開票ノ時ヨリ六十日間其管理ノ役所ニ於テ保存スルヲ要セリ直ニ之ヲ燒棄テスシテ六ヶ月間保存スルヲ要スルハ他日訴訟ヲ起シ異議ヲ申立ツル等ノ事ナキヲ保セサレハナリ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條

第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

〔解〕此條ハ選舉ニ關シテ訴訟又ハ告訴告發アルトキノ投票保存期限ヲ定ムルモノトス  
訴訟トハ選舉人又ハ其他ノ者ヨリ選舉長又ハ其他ノ者ニ對シテ

訴ヲ起シタルモノ又ハ第十二章ニ在ル當選訴訟等ノ選舉ノ事ニ關スル一切ノ民事上ノ訴訟ヲ云ヒ告訴トハ選舉長選舉委員又ハ其他ノ者ニ對シ不正ノ所爲アリトシテ其所爲ノ爲メニ害ヲ受ケタリト云フ者ヨリ訴ヘ出テタル刑事上ノ訴訟ヲ云フ又告訴トハ被害者ニ非サル他ノ者ヨリ爲シタル刑事上ノ訴訟ヲ云フ此等ノ訴訟又ハ告訴告發アリタルキハ其投票ハ證據上最モ要用アルモノナルカ故ニ一ケ年又ハ六ヶ月ノ期限ヲ經過スルモ尙ホ之ヲ燒棄スルヲ許サズ必ズ其確定裁判即チ上訴期限ヲ經過シ又ハ上訴ノ裁判アリタル後更ニ其裁判ノ動かカス能ハサルニ至リタル後マテ之ヲ保存スルヲ要セリ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點驗ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

〔解〕本條ハ選舉明細書ヲ作ルヘキヲ決定ムルモノニシテ這ハ投票明細書ト同一ノ趣旨ニ出テタルモノトス

### 第九章 當選人

〔解〕當選人トハ選舉人ノ爲シタル投票ニ依リ點檢ヲ爲シ其最高點ヲ得タル者ヲ云フ本章ニ於テハ如何ナル者ヲ當選人ト爲ス可キ乎又當選人ノ議員ト爲ルノ手續等ヲ定メタルナリ

### 第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

〔解〕此條ハ當選人ノ定メ方ヲ規定シタルモノニシテ其投票總數ノ最多數ヲ得タル者ヲ當選人ト爲セリ此法ニヨルキハ通例其選舉區内ニ於テ最モ多數ノ名望ヲ博シタル被選人ヲ當選人ト爲スノ

利益アリトス而シテ其選舉區内ニ於テ名望家多キトキハ同數ノ投票ヲ得タル者數名アルコトアリ此場合ニ於テハ更ニ其數名中ヨリ選拔セサルヘカラス此條第二項ニヨレハ此場合ニハ生年月ヲ比較シ其長者ヲ以テ當選人ト爲セリ是長者ハ一般ノ推測ニヨリ少者ヨリ知慮經驗ノ勝リタル者ト看做シタルニヨルモノニシテ其所有財産ノ多寡ハ措テ問ハサリシハ寔ニ其宜ヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス而シテ若シ又其生年月ノ同シキキハ抽籤ノ法ニヨリテ定ムヘキモノト爲セリ

### 第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出可シ

〔解〕本條ハ解說ヲ俟タズシテ明ナリ

### 第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知



シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示ス可シ

〔解〕此條モ亦解説ヲ要セスシテ明ナリ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ツヘシ

〔解〕被選舉人當選スルモ或ハ疾病其他ノ事故ニアリテ其當選ヲ承諾スルヤ否ヤ知ルヘカラス是故ニ當選人其通知ヲ受ケタルトキハ

第六十三條ノ期限内ニ其諾否ヲ届出テサルヘカラサルモノト爲セリ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人ト爲リタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ツ可シ

〔解〕例ヘハ甲者京都府ノ某選舉區内ニ於テ地租ヲ納メ東京ニ住シ

テ所得税ヲ納ムルコトアラシサレハ甲ハ此兩地ヨリ選舉セララルノ權アルヲ以テ双方ニ於テ當選者ト爲ルコトアリ本條ハ此場合ヲ規定セルモノニシテ斯ル場合ニハ東京ノ當選ヲ諾スルカ京都府ノ當選ヲ諾スルカ何レカ其一ニ決セサル可カラス若シ甲ニシテ東京ノ當選ヲ諾セハ京都府ノ當選人ヲ缺クコト爲ルカ故ニ第六十四條ノ規則ニ從ハサルヘカラサルモノトス

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其當選ヲ辞シタルモノト見做ス可シ

〔解〕此條ハ當選承諾ノ届出期限ヲ定ムルモノトス

此期限ハ其當選ノ通知ヲ得タル日ヨリ起算スルモノトス而シテ此期限ノ府縣ノ内外ニヨリ異ナル者ハ其届出ニ時日ヲ要スルノ

多少ヲ見計ラヒタルモノナリ故ニ此點ヨリ推スルハ此條ノ十日又ハ二十日ノ日限ハ其到達迄ノ日數ヲ共ニ計算スヘキモノトス例ヘハ七月五日府縣知事ヨリ甲ニ當選ノ通知書ヲ發シ甲ハ同九日ニ受取リタリトシ其日ヨリ計算シテ二十日間(府縣外ニ在ル者ト假定ス)即チ同月二十八日迄ニ府縣知事ノ手許ニ届書ノ到達スルヲ要ス故ニ若シ甲カ二十六日ニ届書ヲ發送シ三十日ニ到達シタリトスレハ最早二十八日ヲ經過シタルヲ以テ此届出ハ無効ナル可シ人或ハ其到達迄ノ日數ハ二十日ノ日限外ニ在ルヘシト云ハソ然レモ斯クノ如クスレハ府縣ノ内外ニヨリ届出ノ日數ヲ區別スルノ理由ナシ其相同シカラサルハ畢竟往復日數ヲ計算シタルヲ以テナリ

日限内ニ届出ナキ者ハ當選ヲ辭シタル者ト看做スハ若シ承諾セ

ハ必ス届出ヲ爲ス可キ筈ナリト推測シタルモノナリ加之一人ノ届出ナキカ爲メニ其届出ヲ待ツルハ總テノ事務ニ延滞ヲ來シ差支ヲ生スルヲ以テ斯クノ如ク決定シタルナリ

**第六十四條** 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サル片ハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ム可シ

〔解〕此條ハ當選人ヲ缺キタルトキノ處分法ヲ定ムルモノトス  
 當選者若シ其當選ヲ辭シ又ハ日限内ニ承諾ヲ届出サルトキハ再選ヲ行フ此場合ニ於テ其方法手續ハ前二章ニ定ムル所ニ依ル而

シテ其ノ選舉長ト稱スルハ初選ノ選舉長ヲ指スモノナリ  
 第五十八條第二項ノ場合トハ同數ノ投票ヲ得タル者數人アル場  
 合ニシテ此場合ニ若シ年長者ヲ以テ當選者ト爲シタルキハ他ノ  
 當選ヲ得サリシ者ハ全ク當選ノ資格ヲ失ヒ再選セサルヘカラス  
 然レモ若シ同年月ノ者ニシテ抽籤ニヨリ當選ヲ定メタルキハ當  
 選ヲ得サリシ者ハ全ク當選ノ權ヲ失ハス其當選人辭シタルキ之  
 ニ代ルヲ得ヘシ斯ク年齡ニヨルト抽籤ニヨルトニ就キ差異ヲ  
 設ケタルハ何故ソヤ蓋シ年齡ニヨリタルキハ其年少者ハ當然當  
 選ノ權利ヲ失フト雖モ抽籤ニヨルキハ當然其權利ヲ失ヒタルニ  
 アラス其初或ハ當選人ト爲ルモ知ルヘカラスト云フ未必ノ有様  
 ニ措カレタルモノナリ之ヲ言ヒ換ユレハ一八年長者ノ爲メニ歴  
 倒セラレ其得タル多數ノ權利ヲ失ヒタルモ他ハ同人共ニ同等ノ

地位ニ措カレタルモノトス是二者其趣ヲ同フセサル所以ナリ  
 若シ同數ノ投票ヲ得且其年齡ノ相同シキ者三人アリテ其一人當  
 選ヲ辭シタルキハ他ノ二人ノ間ニ於テ更ニ抽籤ヲ爲ス可キモノ  
 トス  
 斯ノ如ク當選人辭シタルキハ其次點者ヲ舉クルコトナク再選ヲ爲  
 サシムルハ何故ソヤ次點ニ當ルハ人望ノ之ニ屬スルモノナルコ  
 ハ勿論ナリト雖モ最高點ヲ得タル者ト異ニシテ又多少偶然ニ出  
 ツルコトナシトセス而シテ法律ノ望ム所ハ人望ノ全ク歸屬スル所  
 ノ者ヲ得ルニ在リ是之ヲ再選セシムル所以ニシテ畢竟議員ノ選  
 舉ヲ重シタレハナリ然レモ第五十八條第三項ノ年少ノ故ヲ以テ  
 當選ヲ得サリシ者ヲ排除シ仍ホ再選ヲ爲サシムルニ至テハ較其  
 宜ヲ得サルナキカノ感ナシトセサルナリ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタル中ハ府縣知事ハ當選証書ヲ附與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ錄シテ内務大臣ニ具申ス可シ

〔解〕當選人ノ確定トハ各當選人其當選ヲ承諾シタルヲ云フ又當選人ノ資格トハ第三章第八條ニ規定シタル所ノモノヲ云フ當選証書ハ議員タルヲ証明スルモノナリ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

〔解〕此章ニハ議員ノ任期及補闕選舉ノ事ヲ定ム任期トハ議員ノ其職ニ在ル期限ヲ云フ此議員ニ任期ヲ附スルハ如何ナル道理ニ基キタルカ一タヒ人望ヲ得テ議員ノ職ニ就キタルトキハ永久其職ニ在ルモ決シテ差支ナカルヘキカ如シト雖モ斯ノ如キハ代議制ノ本旨ヲ得タルモノニアラス何トナレハ代議ノ制タル其人民ノ

輿論ヲ代表シ以テ國家ノ意思ヲ決定スヘキモノナリ而シテ當時某黨ノ意見ハ人民ノ贊稱ヲ得輿論ノ唱和ヲ博シ黨員選ハレテ議員ト爲ルモ他日世態ノ變遷時運ノ推移ニ伴ヒ輿論公議ハ如何ニ變更スルモ知ルヘカラス然ルニ一度選ヒタル議員ハ之ヲ變更スヘカラストセハ議會ハ遂ニ人民ノ意思ヲ發表スルノ具ト爲ラス議員ハ一個ノ官吏ト爲ルニ至ル是抑モ代議ノ故ニアラサルナリ然ラハ其議員ノ輿論ニ反對スルニ至テ之ヲ退職セシムルハ不可ナカルヘク豫メ之ニ任期ヲ附シ其退職ヲ強制スルヲ要セサル可シト云フ者アラシク然レモ是言フヘク行フヘカラサルノミナラス其議員ヲシテ輿論ノ奴隸ト爲シ赫然政事社會ニ在テ卓立シ不羈獨立ノ地位ヲ有タシムルヲナシトセハ是亦畏ルヘク慮フヘキノ極ニシテ却テ代議ノ本旨ヲ失スルノ甚タシキモノナリ加之輿

論ヲ以テ議員ヲ退職セシムルカ如キハ其乱雜實ニ謂フヘカヲサルモノアラソは何レノ國ニ在テモ衆議院議員ノ任期ヲ定メタル所以ナリ

議員改選ニ全部ト一部トノ二種アリ全部改選トハ各議員ハ同時ニ任期満チテ總議員ヲ一時ニ更新スルモノ是ナリ一部改選トハ其任期ハ同一ナルモ之ヲ改選スルハ同時ニアラスシテ之ヲ數分シ其一部ツ、毎年若クハ二年目等ニ更新スルモノ即チ例ヘハ全部ヲ二分シ甲部ハ初二年ロシテ改選シ更ニ二年ヲ過キテ乙部ヲ改選シ又二年ヲ經テ甲部ヲ改選スルカ如ク順次轉換シテ更新スルモノ是ナリ此二法何レヲ採ルヘキカニ付テモ學者間議論アリ本法ハ其一部改選タルコトヲ明言セサルヲ以テ全部改選ノ法ヲ採リタルモノ、如シ蓋シ此法ハ衆議院ヲシテ常ニ輿論ト相背馳

セシムルカ如キ弊ヲ生スルコトナク最モ平和圓滑ナルヲ得ルノ利アリトス

又議員ハ疾病又ハ其他ノ事故アリテ職ヲ辞シ若クハ死亡シテ闕位ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テ其闕位ヲ補フコトナルヘカラス是補闕選舉ノ因テ起ル所以ナリ而シテ其方法ノ如キハ即チ本章ニ定ムル所ナリ

### 第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

(解)此條ハ議員ノ任期ト其復選ヲ定メタルモノトス前ニ說明シタル理由ナルヲ以テ法律ハ本條ニ於テ議員ノ任期ヲ定メテ四箇年ト爲セリ夫レ議員ハ果シテ任期ヲ附スヘキモノトセハ其任期ハ幾何ナル可キ乎ハ是亦憲法學者中ニ於テ議論アル所ニシテ各國

ノ典例亦相同シカラズ其長キニ過クルキハ代議制ヲ腐敗セシメ  
又其短キニ失スルキハ人ヲシテ其新陳代謝ノ頻繁ナルヲ厭惡セ  
シメ隨テ之ヲ選任スル自ラ疎漏ニ流ル、ノミナラス議會ヲシテ  
遂ニ幼稚ナル政論家カ其辯論ヲ學フノ所ト爲ラシメ精意國事ヲ  
討議スルノ念ヲ薄カラシム是ヲ以テ本法ハ之ヲ四年ト爲シタリ  
蓋シ四年ノ任期ハ長キニ過キス短キニ失セス最モ其宜シキニ適  
フモノニシテ學者ノ等シク贊同スル所ナリ

前論シタルカ如ク議員ニ任期ヲ附スルハ輿論ノ變遷ニ應シテ人  
民ノ意思ニ相當スル議員ヲ出スニ在リ然レモ必スシモ新ニ議員  
ヲ選舉セサル可カラサルニアラス其舊議員ト雖モ輿論ノ唱和ヲ  
得タルキハ再ヒ選舉セラル、モ決シテ之カ爲メニ代議ノ制ヲ失  
墜セシムルモノニアラス蓋シ其議員ハ即チ新ナル輿論ヲ代表ス

ルモノナレハナリ

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開ク  
ヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨ  
リ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限り臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ  
選舉セシムヘシ

〔解〕此條ハ補闕議員ノ選舉手續ヲ定メタルモノトス  
補闕選舉トハ前既ニ述ヘタルカ如ク議員カ其任期中疾病又ハ其  
他ノ事故ニ由リ職ヲ辞シ若シハ死亡シテ闕員ヲ生メタルトキ其  
闕ヲ補フ爲ニ他ノ議員ヲ選舉スルヲ云フ故ニ此選舉ハ其死亡又  
ハ辭職シタル議員ノ選出セラレタル選舉區ニ限リテ行フモノト  
ス而シテ其投票及選舉會ノ手續ハ別ニ定メタル所ナキニヨリ通  
例ノ規則ニ從フモノトス但其日限ハ二十日ニ限ルヲ以テ通例選

舉ノ規則ハ全ク之ヲ適用スヘカラサルコトアル可シ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

〔解〕此條ハ補闕議員ノ任期ヲ定メタルモノニシテ此條ニヨレハ其前議員ノ任期ニ依ルヘキモノト爲セリ故ニ前議員ハ三年間職ニ在リテ退職シタルキハ補闕議員ノ任期ハ殘ル一年ナリトス此ノ如ク定メタルモノハ衆議院議員ハ如何ナル事情アルモ必ス四年毎ニ更新スヘキモノトシ且其補闕議員前議員ト共ニ一個ノ議員ヲ爲スモノト看做シタレハナリ

第十一章 投票所取締

〔解〕余輩ノ屢論シタル如ク投票選舉ノ事ハ人民ノ參政權ヲ執行スル所以ナルヲ以テ成ル可ク公明正大ナルヲ要シ又其整肅圓滑ニシテ此重大ナル權利ノ執行ヲ妨害スルコトナカラシムルヲ要ス是法律

カ特ニ本章ニ於テ其取締ノ事ヲ規定シ以テ其喧噪擾亂ヲ防キ又其不正非理ノ所行ヲ抑止センコトヲ欲シタル所以ナリ

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

〔解〕此條ハ投票管理者ノ取締權ヲ定メタルモノトス投票所ノ整肅ナルヲ要スルハ前論スル所ノ如シ然ルニ若シ喧噪擾亂ヲ爲シ其秩序ヲ紊ルニ於テハ之ヲ抑止セサルヘカラス其取締權ハ其管理者ナル町村長ニ在ルモノトス必要ナル場合トハ町村長ノ制止ヲ肯セスシテ仍ホ喧噪擾亂ヲ爲スカ又ハ犯罪ヲ行ヒ他人ヲ害スル等ノ事アル場合ニシテ警察官ノ處分トハ犯罪人又ハ妨害者ヲ拘引スルヲ云フ

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ

許サス

〔解〕我器トハ軍事ニ用ユル兵器ニシテ例ヘハ火樂銃礮ノ如キ是ナ  
 リ兇器トハ人ヲ殺傷スヘキ器具ニシテ刀劔類ヲ云フ此他其性質  
 上兇器ニアラスト雖モ猶ホ其用法ニヨリテハ兇器ト爲ルヘキ物  
 件アリ小刀庖刀棍棒ノ如キ是ナリ是等ハ直ニ之ヲ兇器ト云フヘ  
 カラス其人ヲ殺傷シ又ハ毆打スルニヨリテ始メテ兇器ト云フヲ  
 得ヘシサレハ是等ノ物件ハ之ヲ投票所ニ携帯スルモ町村長ハ其  
 入場ヲ差止ムルヲ得サルカ余ノ解スル所ニヨレハ是等ノ物件  
 ハ甚ダ危険ナル性質ノモノナレハ町村長ハ其見込ニヨリ或ハ携  
 帶入場ヲ禁シ或ハ之ヲ禁セサルヲ得ヘキモノトス  
 此條ハ其行兇ヲ豫防スルノ旨意ニ出テタルモノトス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

〔解〕此條モ亦喧噪擾害ヲ豫防スルノ意ニ出テタル者ニシテ若シ何  
 人ト雖モ隨意ニ入ルヲ許サハ或ハ選舉人ヲ教唆誘導シ又ハ場  
 内ヲ噪カシ投票ヲ妨クルノ弊害ヲ生スルノミナラス如何ナル者  
 ノ立入ルモ知ルヘカヲサルカ故ニ如何ナル變事ヲ起シ秩序ヲ紊  
 スコトアルモ亦圖ルヘカラス是其入場ヲ許サ、ル所以ナリ

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧噪ニ涉リ又ハ他  
 人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

〔解〕抑モ選舉人カ其權利ヲ執行スルニ付テハ最モ自由獨立ナラサ  
 ル可カラズ是實ニ代議制ノ本旨ノ存スル所ニシテ各自自由獨立  
 ナル意思ノ相符合シテ一點ニ歸着スルハ國家ノ均一ナル意思ヲ  
 發表スル所以ナリ然ルニ若シ他人ノ教唆誘導ニヨリ自己ノ本意  
 ヲ枉ケテ他人ノ意ニ從ヒ心ナラスモ投票ヲ爲スカ如キコトアリ



ヲハ是代議ノ美制ヲ腐敗セシムル所以ナリ此條ノ演說討論及喧  
噪ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルカ如キ自由獨立ノ意思ヲ害  
スヘキ事項ハ一切之ヲ禁シタルハ畢竟之カ爲メナリ

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ  
警戒シ其ノ命ニ從ハサルハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

[解]町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニハ警察官吏ノ  
處分ニ付スルヲ得ルノ權アルトキハ既ニ第六十九條ノ定ムル所ナ  
リ本條ハ仍之ヲ擴充シ其ノ命ニ從ハサル者アルトキハ之ヲ退場  
セシムルヲ得ト爲シタリ是其取締上已ムヲ得サルニ出ツルモ  
ノトス

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其  
ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、コトヲ得

[解]選舉人ニシテ若シ犯罪ヲ爲シ退場又ハ拘引セラレタルトキハ更  
ニ之ヲシテ投票セシムルニ及ハサルモ唯其取締處分ノ爲メ退場  
セシメタルトキハ之カ爲メニ其有スル投票權ヲテ剝奪スルヲ得  
サルカ故ニ再ヒ投票所ニ呼入レ更ニ投票ヲ爲サシムヘキモノト  
ス然レモ其到底秩序ヲ紊ル等ノ見込アルトキハ遂ニ入場セシメス  
其投票權ヲモ剝奪スルヲ得ヘシ是本條呼入ル、コトヲ得ト記  
シタル所以ナリ

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律  
ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票  
明細書ニ記載スヘシ

[解]此條ニハ犯罪人ノ投票禁止ノ事ヲ定ム此條ニ記シタル刑法又  
ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者トハ曾テ其犯罪ヲ爲シ又ハ犯罪

ニ由リテ罰セラレタルモノヲ云コアラシテ參會中ニ犯シタルモノ、ミチ指スモノト解セサルヘカラス何トナレハ此投票禁止ノ處分ハ町村長ノ爲ス所ニシテ町村長ハ裁判官ニアラサレハ其現行犯ニアラサル限りハ如何ナル犯罪ヲ爲シタルノ証跡アルモ之カ爲メニ其投票ヲ禁スルノ權ナシ加之其既ニ罰セラレタル者ニ付テハ第十四條ノ規則ノ在ル有リ町村長ハ特ニ之ヲ禁スルヲ要セサルヘキナリ此條投票所ニ參會シタル云々ト記スルハ蓋シ之カ爲メナリ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村町ノ決定ニ對シテハ

投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔解〕投票ニ關ル異議ノ申立トハ主トシテ町村長カ選舉人ノ投票ヲ禁シタル場合ヲ云フモノニシテ其他總テ投票ニ關ル事項ヲ包含

ス此條ノ事ハ第五十二條ニ説キタルモノト同シキヲ以テ今之ヲ再說セス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

〔解〕此條ハ選舉會參觀者ノ取締法ヲ指示シタルモノニシテ此條ニヨレハ總テ前述ヘタル第六十九條ヨリ第七十三條マテノ例ニ照シテ選舉長ノ處分スヘキモノトセリ此事ニ付テハ別ニ説クヘキモノナシ

第十二章 當選訴訟

〔解〕當選訴訟トハ當選ヲ失ヒタル者ヨリ當選人ヲ被告トシ其當選ヲ無効ナリトシテ訴フル所ノ訴訟ヲ云フ是當選人ニ取リテハ最

モ重大ノコナレハ法律ハ特ニ其手續ヲ規定シ尋常ノ訴訟ト同一  
ナラシメサルナリ

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無  
効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五  
條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ  
出訴スルコトヲ得

〔解〕本條ハ當選訴訟ノ出訴期限及管轄裁判所ヲ定メタルモノナリ  
無効トスルノ理由トハ被選資格ヲ備ヘズ又ハ犯罪ノ所爲アル場  
合ノ如キヲ云フ是等ノ場合ニ於テ當選ヲ失ヒタル者ニ起訴ノ權  
ヲ與ヘタルモノハ其者ノ當選ニ由リテ自己ノ當選ノ權ヲ害セラ  
レタルヲ以テナリ  
控訴院ニ出訴スヘキモノトシタルハ其訴訟ノ審理ヲ鄭重ナラシ

ムルノ意ニ外ナラズ然シテ其出訴ノ期限ヲ當選人ノ姓名告示ノ  
日ヨリ三十日以内ニ制限シタルモノハ其以後ニ在リテハ當選人  
ハ既ニ議院ニ列席スヘク(列席後ハ議院ニ於テ之ヲ審査議決スヘ  
キモノナリ)又其証據ノ湮滅ニ歸スヘキヲ以テナリ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保証金トシテ金三百圓又ハ之  
ニ相當スル公債証書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

〔解〕原告人ニ保証金ヲ差出サシムルモノハ濫ニ訴訟ヲ起スノ弊ヲ  
矯メ又其裁判費用ヲ納完セサルトキニ之ヲ支辨セシメンガ爲ナ  
リ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ  
一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保証金ヨリ之ヲ控除シ仍足  
ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

〔解〕本條ハ保証金ノ用法ヲ定ムルモノニシテ原告人敗訴シタルトキハ其言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルヘカラス若之ヲ納完セサルトキハ保証金ヨリ引去ルヘク若シ仍ホ足ラサルトキハ其不足分ヲ差出サシムルモノトス

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

〔解〕本條ハ當選訴訟判決ノ便法ヲ定メタルモノニシテ一ノ裁判言渡書ヲ以テ同一ノ當選人ニ對スル二人以上ノ原告人ニ宣告ヲ爲シ得ヘキモノトシタリ蓋シ當選訴訟ナルモノハ原告人ノ權利如何ニ關セス專ラ當選人ノ當選ハ有効ナリヤ否ヤニ關ス之ヲ換言スレハ其起訴ノ原由ハ一ニ當選人ノ身ニ附着スルモノナルカ故

ナリ是ヲ以テ若シ原告人ノ起訴ノ原因甲乙相同シカラサル場合〔例〕ハ甲ハ無資格ヲ理由トシ乙ハ犯罪ヲ理由トシタルカ如シニハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ宣告スルコトヲ得サルモノトス

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

〔解〕衆議院解散セラルトキハ議員ハ總テ其資格ヲ失フモノニシテ當選ノ有効無効ニ關ハラス故ニ原告人ハ勝訴スルモ毫モ其効ナシ之ヲ換言スレハ起訴ノ原因消滅シタルモノナリ是控訴院ハ其訴訟ヲ審理スルニ及ハス之ヲ棄却スヘキモノト爲シタル所以ナリ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

〔解〕原告人理由ナクシテ訴訟ヲ起シ敗訴シタルキハ其敗訴ノ一事ヲ以テ充分ニ被告人ノ名譽ヲ回復スルニ足ルト雖モ若シ其敗訴スルニ先チ願下ヲ爲ス等ノコトアルキハ被告當選人ハ幾分カ其名譽ヲ毀傷セラル、モノナリ故ニ法律ハ其名譽ヲ回復セシムルカ爲メニ原告ニ命スルニ公告ヲ爲スヘキコトヲ以テシタルナリ即チ本條ハ賠償ノ方法ヲ指定シタルモノトス

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ  
當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

〔解〕當選訴訟ヲ審判スルニ當リテ原告人又ハ被告人若ハ其他ノ者

ニシテ刑法又ハ此法律ノ犯罪ヲ爲シタルコトヲ發見シタルキハ別ニ公訴ヲ起スノ手續ヲ履ムコト及ハス直ニ檢察官ヲ立會セシメテ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ許シタリ是蓋シ其實際上ノ便宜ヲ計リタルニ外ナラス然レモ法律ハ刑法又ハ此法律ノ犯罪者ト記スルカ故ニ其他ノ犯罪ニ付テハ控訴院ハ直ニ處刑ヲ言渡スコト能ハス必ス所轄ノ刑事裁判所ニ送付スヘキモノトス加之刑法又ハ此法律ノ犯罪者ト雖モ本訴ニ關係セサル犯罪ハ之ヲ審判スルコトヲ許サス必ス相當ノ手續ヲ以テ公訴スヘキモノト爲セリ畢竟本條ノ如キ便法ヲ設ケタルハ其當選訴訟ト關係シテ審理上最モ便宜ナルヲ以テナリ而シテ其審理ニ檢察官ノ立會ヲ要スルモノハ檢察官ハ刑事訴訟ノ原告人ニシテ總テノ公訴ニハ必ス檢察官ノ立會ヲ要シ其立會ナキトキハ裁判ヲ爲スコトヲ許サルハ治罪法ノ

原則ナレハナリ(沿革法第三十五條)

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

[解]當選人ノ姓名ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具申シタルモノナリ故ニ其訴訟ノ結果ヲ内務大臣ニ報告セシムルハ當然ノコト又衆議院開會スルトキハ之ヲ議長ニ送付スルヲ要シタルモノハ議長ハ其議員ノ資格ノ有無ニ付キ退席セシムルト否ト決セサルヲ得サレハナリ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

[解]當選訴訟ハ控訴院ニ出訴スヘキモノト爲スカ故ニ其宣告ニ對

シテハ控訴ヲ爲スヲ得然レモ大審院ニ上告スルコトハ之ヲ許シタリ上告トハ其裁判ヲ違法ノモノナリトシテ攻撃スルモノニシテ事實ノ覆審ヲ爲スモノニアラス故ニ大審院ハ其裁判法律ニ反シタリト認ムルキハ之ヲ破毀シテ他ノ控訴院ニ移シ更ニ裁判ヲ爲サシムルト雖モ唯事實ニ關スルノミナルキハ假令其誤認ニ出ツルコトヲ發見スルモ既ニ之ヲ如何ニスルコト能ハサルモノトス

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

[解]當選人ハ假令訴ヘラル、モ直ニ議員タルノ權利ヲ失ヒタルモノニアラス故ニ其無効ノ當選人タル裁判確定スルマテハ議院ニ列席スルコトヲ得ルモノト爲シタリ是議院法第八十條ニ定ムルモノト其旨ヲ同フスルモノトス

若シ其裁判確定シテ無効ノ當選人ト爲リタルトキハ其次ノ高點者ヲ當選人ト爲スモノニシテ更ニ選舉ヲ開クコト及ハサルヘシ

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

〔解〕當選訴訟モ亦尋常ノ訴訟ト相異ナルコトナシ故ニ法律カ特ニ本章ニ於テ其手續ヲ定メタルモノ、外ハ皆普通ノ訴訟手續ニ依ルモノト爲シタルナリ

第十三章 罰則

〔解〕本章ニ於テハ投票并ニ選舉會其他選舉ニ關スル各種犯罪ノ刑并ニ其處分等ヲ規定シ又其犯罪ニ關シテ選舉被選ノ資格投票選舉及當選ノ効力等ヲモ併セテ規定シタリ

本章ニ規定シタル各種ノ犯罪ニ付テハ別ニ總則ヲ設ケサルヲ以

テ刑法第五條ノ規則ニ從ヒ刑法ニ定メタル總則ニ依リテ處分セサルヘカラス故ニ再犯加重數罪俱發酌量減刑等ノ規定ハ亦本章ニモ適用スヘキモノトス

第八十九條 納稅額年齡住所及其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔解〕納稅額年齡住所ノ事ハ本法第六條ニ規定シ其他選舉資格ノ事ハ第四章ニ規定シタリ

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

〔解〕本條ハ不正ノ投票ヲ爲サシムル爲メ賄賂ヲ用非及其賄賂ヲ受ケタル罪ヲ規定シタルモノコシテ間接ニ授受スルトハ例ヘハ選舉人ノ親族ニ授與シタル場合ノ如キ是ナリ法律ハ茲ニ選舉人ニ授與シ云々ト記スルヲ以テ其選舉人ニアラサル者ニ授與シ已レヲ賞揚セシメ因テ投票ヲ得ントシタル所爲ハ本條ニ依テ罰セラレヘキモノニアラスト雖モ若シ其結果選舉人ヲ利スルトキハ亦本條ニ依リ罰セサルヘカラスト然レモ法律カ負債ヲ免除シタル如キ場合ヲ明言セサルハ少ク不備ノ感ナシトセサルナリ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得シメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ

刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

〔解〕前條ハ其金錢物件手形又ハ公私ノ職務ヲ授與シ若ハ授與スルノ約束ヲ爲シタル所爲及其賄賂ヲ受ケ又ハ受クルノ約束ヲ爲シタル所爲ヲ罰スルモノナリ而シテ此等ノ所爲ニヨリテ投票ヲ得又ハ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スヲ抑止シ又ハ投票ヲ爲シ若ハ爲サ、リシ所爲ハ即チ本條ニ規定スル所ニシテ本條ノ規定スル所ハ前條ノ所爲ヨリ生シタル結果ニ關スルモノトス此所爲ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ罰スヘキモノトセリ故ニ此罪ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキモノトス



第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔解〕暴行トハ毆打脅迫等ノ所爲ヲ云フ自己ニ投票ヲ得又ハ或人ニ投票ヲ得セシメ又ハ選舉人カ或人コ投票セントスルヲ抑止セシトノ目的ヲ以テ此等ノ所爲ヲ爲シタルキハ本條ニヨリテ罰セラレヘキモノトス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔解〕本條ニ定ムル罪ハ前條ノ犯罪ノ更ニ一步ヲ進メテ犯罪者カ其

目的ヲ達シタル場合即チ自己ニ投票ヲ得又ハ或人ニ得セシメ若ハ選舉人ヲシテ或人ニ投票スルヲ止メシメタル場合ナリトス  
第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ  
〔解〕本條ハ多衆ヲ嘯聚シテ暴行ヲ爲シタル場合ノ犯罪ヲ規定シタルモノニシテ犯人ノ其目的ヲ達セサリシ場合ニ關スルモノトス戎器及兇器ノ何タルコトハ第七十條ニ於テ解説シタレハ就テ參看

スヘシ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

〔解〕選舉ノ際トハ投票及選舉會ヲ開キタル場合ヲ云フ故ニ其他ノ場所ニ於テ管理者又ハ立會人タル人ニ暴行ヲ加フルモ本條ヲ以テ罰スヘキモノニアラサルナリ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

〔解〕本條ハ多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ罰セリ然シテ其刑ヲ加重シ重罪トナシタルハ一人コト爲スヨリ其情狀重ク且ツ罪ヲ犯スニ便ニシテ其加害甚タ大ナレハナリ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ刑ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

〔解〕本條ハ演說又ハ新聞紙若クハ其他ノ文書ヲ以テ前三條ニ記載シタル罪ヲ犯スヲ教唆シタル者ヲ罰シタリ  
○演說ハ多衆人ヲ集メ說ヲ演フルノ謂ニシテ談話ハ之ヲ包含セス故ニ一人又ハ數人ニ對シ教唆ヲナシタル場合ハ當然刑法第百五條人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲スニ依

リ罰スヘキモノトス

其○他○ノ○文○書○トハ書籍書簡又ハ揭示等ヲ指ス

教○唆○ノ○効○ナ○キ○者○トハ教唆ヲ爲シタルモ何人モ罪ヲ犯サ、リシ場

合ヲ云フ此ノ如キ場合ハ普通之ヲ教唆ト云ヘカラス隨テ何等ノ

犯罪ヲモ成サ、ルモノナレハ此場合ニ於テハ演説ヲ爲シ又ハ新

聞紙若クハ文書ニ記載シタル一事ヲ以テ既ニ多少ノ害ヲ加ヘタ

ルモノナリ故ニ法律ハ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷スヘキ

モノトナシタリ

本條ノ教唆ハ特定ノ人ニ對スルヲ要セス唯其罪ヲ犯スヘキコト

ヲ演ヘ又ハ記載シタルノミヲ以テ成立ス是普通ノ教唆犯ト其趣

ヲ異ニスル所ニシテ又本條ノ規定ヲ要シタル所以ナリ

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入り

タル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔解〕戎器又ハ兇器ヲ携帯シタル者ハ投票所ニ入ルヘカラサルコト

ハ既ニ第七十條ニ規定セリ本條ハ此取締ノ規則ニ違犯シタル者

ヲ罰シタルナリ

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテ

ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

〔解〕當選人ニシテ第八十九條ヨリ第九十八條ニ記載シタル罪ヲ犯

シ刑ニ處セラレタルトキハ假令選ハル、モ其當選ハ無効トナル

モノトス

茲ニ一問題アリ第九十一條ノ場合ニ他人カ賄賂ヲ用ヰテ甲者ヲ

投票セシメ甲者當選シタルキハ其當選ハ無効トナルヤ否ヤ此場

合ニハ甲ニ犯罪ノ所爲ナキヲ以テ之ヲ無効ト爲スヲ得サルヘシ

若シ其不正ノ投票ニ因リ當選シタルヤノ疑アルトキハ第七十八條ニ依リ當選訴訟ヲ起シ之ヲ無効ト爲スノ外ナキモノトス

第百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔解〕本條ノ犯罪ハ他人ノ姓名ヲ詐稱シタル者及第十四條ノ選舉人タルコトヲ得サル者ニ限リ其他ノ選舉資格ヲ欲ク者ニ適用スルコトヲ得ス蓋シ其選舉資格ヲ欲ク者例ヘハ第六條ノ資格ヲ備ヘス又ハ軍人若クハ華族ノ當主コシテ詐リテ投票ヲ爲シタルトキハ刑法第二百三十一條第二百三十二條ノ身分詐稱罪ヲ以テ問擬スヘキモノナレハナリ

第百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰

金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

〔解〕選舉ニ關スル犯罪ニ由リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレ、モノトナシタルハ不正ノ所爲ニ由リ更ニ投票選舉ヲ害スルノ恐アルヲ以テナリ然シテ前數條ノ罪ヲ犯シ云々トアルカ故コ刑法ニ依リテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニハ本條ヲ適用スヘカラサルヤ惟フニ選舉ニ關スル犯罪ナレハ何レノ法律ニ依リテ罰セラレ、モ亦選舉及被選ノ權ヲ停止スヘキモノトス何トナレハ法律ノ防カント欲スル弊害ハ之ヲ罰スル法律ノ異ナルコヨリ差異アルノ理ナケレハナリ

第百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務

ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔解〕此ノ法律ニ規定シタル義務トハ第三十三條第二項第三十五條第四十三條第四十四條第四十八條第四十九條第五十二條等ニ規定シタルモノ是ナリ

第二百二條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各

其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

〔解〕重キニ從テ處斷ストハ此法律ノ罰則ト刑法ノ正條トヲ比較シ其重キ方ヲ以テ罰スルヲ云フ例ヘハ公權ヲ剝奪セラレタル者他人ノ姓名及官職位階ヲ詐稱シ投票ヲ爲シタルトキハ本法第百條ニ該當スト雖モ其官職位階ヲ詐稱シタル點ハ刑法第二百三十二條ニ觸ル、モノトス故ニ此犯人ヲ罰スルコトハ此兩條ヲ比較シ其重キ刑法第二百三十二條ニ從ヒ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ

第四百條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

〔解〕期滿免除トハ或ル期限ヲ經過シタルヲ以テ責ヲ免除セラル、モノヲ云フ刑事ノ期滿免除ハ分テ刑ノ期滿免除ト公訴ノ期滿免除トス本條ノ期滿免除ハ此二種ノ何レニ屬スルカ本條ハ之ヲ明示セス故ニ或ハ此二種共ニ包含スルモノト解スル者アラソ然レモ我輩ノ解スル所ヲ以テスレハ本條ハ唯公訴ノ期滿免除ヲ規定シタルノミニシテ刑ノ期滿免除ニアラサルヘシ何トナレハ法律カ斯ノ如キ短期ヲ以テ期滿免除ヲ得セシムルモノハ既ニ六箇月ヲモ經過シタル後ハ更ニ審理ヲ爲スノ必要ナキノミナラス其証據モ他ノ犯罪ヨリハ速ニ湮滅ニ歸スルモノト推測シタルニアリ然ルニ一旦刑ニ處セラレタルトキハ他ノ犯罪ト異ルヲナクシテ

決シテ社會ハ速ニ犯罪ノ紀念ヲ散スルノ理ナシ加之本條ニハ唯  
 犯罪トアルノミコシテ刑ノ事ヲ示サ、ルヲ以テナリ  
 本條ニ選舉ニ關ル犯罪トアルカ故ニ此罰則ニ依リテ罰セラレタ  
 ル者ノミナラス刑法ニ依リテ罰セラレタル者ト雖モ苟モ議員選  
 舉ニ關ル犯罪ナルトキハ亦本條ノ期滿免除ニ從フヘキモノトス  
 故ニ例ヘハ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者刑法第二百三  
 十三條若ハ管理者又ハ立會人其投票ヲ増減シタルトキ(同第二百  
 三十五條若ハ選舉長其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アルトキ(同第  
 二百三十六條)ノ如キハ刑法ニ依リテ罰セラレヘシト雖モ本條ノ  
 期滿免除ヲ適用スルヲ得ヘシ  
 本條ニハ期滿免除ノ起算點ヲ示サスト雖モ這ハ治罪法第十三條  
 ニ從フヘキモノトス

第二百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ  
 貼示スヘシ

[解]此罰則及第十一章ノ投票所取締規則ハ投票所及選舉會場ニ出  
 入スル者ニ取リテ最モ必要ニシテ必ス知ラサルヘカラサルモノ  
 ナリ是法律カ其周知ヲ期センカ爲メニ投票所及選舉會場ニ貼示  
 スヘキモノトナシタル所以ナリ

第十四章 補則

[解]補則トハ本則ノ規定ヲ實行スルヲ得サル場合ノ變通ノ規則ニ  
 シテ立法者カ本法ヲ頒布セサル以前ヨリシテ前數章ニ缺漏アル  
 コトヲ知リツ、特ニ本章ニ於テ其補遺ノ規則ヲ設ケタルモノニ  
 アラス故ニ補則ハ一時ノ變則タルヲ知ラサルヘカラス

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シ

タル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

[解]本條ハ第三十一條ノ例外ヲ定メタルモノニシテ投票ハ普通町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ設ケ其市ノ域内ニ於テ數選舉區アルモハ其一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設クヘキモノト爲セリ而シテ其投票及選舉ノ管理ハ普通ノ場合ニ於テハ町村長之ヲ掌ルヘキモノナレバ本條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長之ヲ兼ヌヘキモノト爲セリ故ニ市長又ハ區長ハ毎ニ其選舉長ト相兼ヌルモノトス  
斯ノ如ク定メタルハ市ニ於テハ別ニ數箇所ノ投票所ヲ設クルノ必要ナキヲ以テナリ

此事ヲ定ムルニ第六章ニ於テセズシテ之ヲ補則中ニ入レタルハ何故ナル乎余輩其故ヲ知ルニ苦マサルヲ得ス何トナレハ本條ノ事ハ決シテ一時ノ變例ニアラサルヲ以テナリ然レバ之ヲ本章中ニ入レタルヲ以テ之ヲ觀レハ將來市區内ニ於テモ數箇所ノ投票所ヲ設クルノ意ナルモ亦知ルヘカラサルナリ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ  
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ  
[解]本條モ亦前條ノ例外ニ應シテ第三十三條第四十七條ニ例外ノ

規則ヲ定メタルモノナリ而シテ其立會人ノ職務ハ既ニ該條并ニ  
其他ノ條ニ於テ説明シタルヲ以テ今更ニ之ヲ贅セス但シ其相同  
シカラサルハ普通ノ場合ニハ立會人ト選舉委員トノ二種ニ分チ  
投票ト選舉會トニ參列セシムルモ本條ハ之ヲ分タサルヲ是ナリ  
又本條第三項ニヨレハ市區ノ投票選舉ニハ普通ノ場合ノ如ク投  
票明細書ト選舉明細書トノ二種ノ帳簿ヲ備フルニ及ハス選舉明  
細書中ニ投票ノ事ヲモ記入セシムルヲ爲セリ是蓋シ實際ノ煩  
雜ヲ避ケタルニアリトス

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長  
ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

〔解〕<sup>〇</sup>嶋司ハ一府縣下ノ管内ニ在リナカラ同一ノ行政ヲ執行スルコ  
ト能ハサル嶋嶋ニ設クル所ノ行政官吏ニシテ恰モ郡長ノ如キモ

ノナリ蓋シ島司ハ行政上ノ便宜ニ基キ一時設クルモノニシテ永  
遠設クヘキモノニアラス而シテ其管轄島嶋ニハ一般ノ行政規則  
ヲ施行セサルナリ本法ニハ嶋司ノ職務ヲ明記セス故ニ本條ニ於  
テ嶋司ハ選舉長ノ職務ヲ掌ルヘキコトヲ規定セリ而シテ嶋司ハ  
右ニ述フル如ク永遠ニ設置スヘキモノニアラサルヲ以テ其職務  
ヲ規定スルヤ之ヲ補則ニ於テシタル所以ナリ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタ  
ル町村長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ

〔解〕本法ヲ施行スルニ至ルモ未ダ町村制ヲ施行セサル町村ニ於テ  
ハ本法ニ規定シタル町村長ノ職務ハ其町村ノ戸長ヲシテ之ヲ取  
扱ハシムルナリ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條



第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

〔解〕本法第六條第八條ニ據レハ所得稅ヲ以テ選舉者及被選者ニ要スル納稅額ニ算入センコトハ三年以來引續キ納稅シタルコトヲ要セリ然ルニ選舉人名簿調製ノ初年ハ明治二十三年ニシテ所得稅規則實施ハ明治二十一年四月ニ在リテ未タ三年ニ滿タサルヲ以テ所得稅ハ之ヲ納稅額ニ算入スルヲ得ス故ニ本條ニ於テハ其施行以來引續キ納ムル者ハ明年調製スヘキ名簿ニハ三年ノ制限ヲ要セサルコトヲ規定シタルナリ

第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

〔解〕北海道沖繩縣及小笠原島ハ土地荒廢人烟稀少ニシテ人文モ亦

本州ノ如ク開達セサルヲ以テ一般ノ地方制度ヲ施行スルヲ得ス故ニ後日内地ト同シク町村制ヲ實行スルニ至ルマテハ本法ヲ施行セス即チ是等ノ嶋地ニ在リテハ帝國議會ノ議員ヲ選出スルコトヲ得サルナリ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西郷從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼内務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖

文部大臣 子爵森 有禮  
遞信大臣 子爵榎本武揚

### 會計法

〔解〕會計法トハ政府費額ノ收入支出及其豫算決算等ヲ定ムルモノ  
是ナリ

夫レ國家ノ政務ヲ執リ法令ヲ行フニハ必スヤ金幣ナカル可カラ  
ズ金幣ノ政務ニ於ケル其レ猶ホ瀛力ノ瀛船瀛車ニ於ケルカコト  
キ歟瀛船瀛車ノ機關ハ如何ニ精巧緻密ナルモ運轉手技師ハ如何  
ニ老練妙技ヲ有スルモ若シ瀛力ヲ缺クニ於テハ何ヲ以テ乎能ク  
洋々タル萬里ノ波濤ヲ渉ルヲ得ンヤ又焉クソ能ク蜿蜒タル長  
程ヲ瞬時ノ間ニ走ルヲ得ンヤ政府ニシテ若シ金幣ノ支給ヲ得ル

コナカリセハ法令如何ニ善美ナルモ到底之ヲ行フニ由ナク官制  
如何ニ整頓スルモ決シテ活動スル能ハサルヘク有司如何ニ老練  
ナルモ毫モ其力ヲ用ユルニ所ナカルヘシ其之ヲ行ハシメ之ヲ活  
動セシメ之ヲシテ其技術ヲ奮ハシムル所以ノモノハ唯金幣アル  
ノミ  
夫レ然リ而シテ其金幣ハ如何ニシテ之ヲ得ヘキ乎天ヨリ降ルニ  
アラズ地ヨリ湧クニアラス又政府ハ無限ノ金穴ヲ有スルモノニ  
モアラス故ニ政府自ラ製造シテ又自ラ消費スルモノニモアラス  
其有スル所ノ其費スル所ノ一釐一毛ノ細微ニ至ルマテ皆吾人臣民  
ノ財囊ヨリ出ス所ナラサルハナシ悉ク吾人臣民ノ辛酸勞苦ノ結  
果ナリトス然リ吾人ハ我カ身命財産ノ保護ヲ得安樂ニ愉快ニ此  
世ニ生存シ此國ニ棲息セント欲スレハコソ戴星踏月ノ勞苦ヲモ

願ミス風雨水雪ノ辛酸ヲモ厭ハス妻臥病床子呼饑ノ憐ナル境遇  
 ニ在リナカラモ囊底ヲ拂フテ其租稅ヲ納メ其賦課ヲ出スナレサ  
 レハ政府ニ在テモ其收入支出ヲ明ニシ細微些少ノ金幣ト雖モ敢  
 テ苟モスル所ナカル可キナリ會計法ハ即チ其收入ヲ明コシ其支  
 出ヲ正シ紛亂混雜スル所ナカラシムルニ在リトス若シ夫レ政府  
 ノ財政ニシテ紛亂混雜スル所アラシカ法令其正ヲ得テ施政其宜  
 ナ失ヒ生産衰耗シ民生疲弊シ國家ヲ擧テ泯滅ニ付シ去ルノ外マ  
 タ他アラサルナリ寔ニ財政會計ノ法ハ國家ノ浮沈人民ノ存亡ノ  
 繫ル所ニシテ國家政務ノ最重最要ナルモノト謂ハサル可カラス  
 會計法ノ必要マタ多言ヲ俟タスシテ知ル可キナリ  
 國家財政ノ事ニ關ル問題多々ナリト雖モ憲法及會計法上ニ於テ  
 論究スヘキ主要ナル者概ネ左ニ列叙スル所ノ如シ

(一) 歲計豫算 歲計豫算トハ一定ノ時期中ニ於テ收入シ支出スル  
 所ノ金額ヲ豫定スル計算ノ謂ヒニシテ其時期中ノ收入ト支出ト  
 ノ比較ヲ示スモノ是ナリ若シ一國政府ノ事業年々歳々相同フシ  
 テ其歲計ノ事タル唯其費額ヲ收集シテ之ヲ消費スルニ止マラハ  
 歲計豫算ハ誠ニ易々タル業ナリト謂フヲ得ヘシト雖モ年毎ニ事  
 業ノ伸縮アリ徵租ノ増減アリ其入ルヲ量テ出ツルヲ制シ凡百ノ  
 事業ヲ舉クルルニ足リテ冗費ナカラシメ國家不時ノ用ニ供シテ不  
 足ヲ感セシメサルニ至テハ至難モ亦極レリト謂ハサル可カラス  
 而シテ此至難ナル事業コソ實ニ國家財政ノ要點タリ是故ニ豫算  
 ノ事ハ行政官廳ノ隨意ニ制スル所ニ一任スルコトナク必スヤ毎  
 年帝國議會ノ協贊承諾ヲ要スルモノト定メタリ(憲法第六十四條  
 以下)而シテ其豫算調製ノ事ハ會計法ヲ以テ之ヲ規定セリ

(二) 收入 收入即チ租税ノ賦課徴收及其他政府ニ金幣ヲ納ル、ノ事ハ憲法ニ於テ其要則ヲ定メ(憲法第六十二條第六十三條)別ニ法律ヲ以テ之ヲ規定スルコト爲セリ故ニ會計法ハ唯其原則ヲ定ムルノミコシテ其方法手續等ハ他ノ法律ニ讓ルコト、爲シタリ

(三) 經費ノ支出 政府ノ收入シタル金額ハ如何ナル目的ニ向テ消費スヘキ乎ハ亦至要ノ事タリ故ニ會計法ハ之ヲ定メタリ

(四) 歲計決算 豫算ニ次テ必要ナルモノハ歲計決算ナリ歲計決算トハ何ソヤ或一定ノ時期内ニ於テ實際收入シ支出シタル金額ノ計算ヲ云フ是其收入支出ノ幾何ナルト支出ノ目的ノ那邊ニ在リシヤチ知ルノミナラス既往ヲ計リ將來ヲ推スニ於テ缺クヘカラスナル所ナリ是ヲ以テ歲計決算ハ亦帝國議會ニ提出セサルヘカラス(憲法第七十二條)而シテ其決算ハ最モ精確緻密ナルヲ要シ又其

迅速ナルヲ要スルモノナリ故ニ會計法ハ亦之ヲ規定セリ

(五) 會計検査 財政ノ整頓ヲ致シ會計ノ精確ナランニハ之ヲ當該有司ノ處理ニ放任スヘカラス必スヤ獨立不羈ノ官衙ヲシテ之ヲ検査監督セシムルモノナカルヘカラス是會計検査ノ必要ナル所以ナリ故ニ憲法(第七十二條)及會計法ハ此事ヲ規定ス然レモ其職務權限等ニ至テハ別ニ法律ノ在ル有リ會計法ハ之ニ預カラサルナリ

以上ノ外尙ホ會計法ニ於テ定ムル所ノモノアリト雖モ此等ハ要スルニ右ニ示シタル問題ノ細目ヲ分チタルニ過キサルナリ

余輩ハ茲ニ會計法總論ヲ終リ各條項ニ説入ルコト先チ仍一ノ讀者ニ注意ヲ促スヘキモノアリ他ニアラス此法ノ必要ナルコト上來既ニ説ク所ノ如クナルヲ以テ吾人臣民タル者亦善ク之ヲ玩味セサ

ルヘカラスト雖モ此事ヲ瞭解センニハ少ク且財政學ノ一斑ニ通  
セサルヘカラスアルト是ナリ然レモ今茲ニ財政學ノ學理ヲ應用シ  
テ縱横ニ之ヲ解釋セントセハ却テ煩雜ニ涉リ其大旨ヲモ悟了ス  
ル能ハサルアラソトナ恐ル故ニ唯平易簡略ニ法意ヲ摘述スル  
ト爲シタリ若シ夫レ理論ニ不備不滿ノ憾アルカ如キハ蓋シ亦已  
ムヲ得サルノミ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

### 第一章 總則

〔解〕總則トハ特別ノ事項ニ關セズ此法ノ大体ニ互リテ適用シ得ヘ  
キ規則ヲ云フモノニシテ本章中ニ於テハ(第一)會計年度ノ事(第二)  
歳入歳出ノ事(第三)經費支出ノ原則(第四)官廳資金ノ原則ヲ規定シ  
タリ

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一

日ニ終ル

會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十  
日マテニ悉皆完結スヘシ

〔解〕本條第一項ハ會計年度ノ期限ヲ始メテ毎年四月一日ニ始マリ  
翌年三月三十一日ニ終ルモノト爲セリ會計年度トハ政府カ其收  
入ヲ始メ支出ヲ終リ總テノ收支ノ決算ヲ爲スヘキ時期ヲ云フ  
第二項ハ一年度内ノ出納事務ヲ終ルヘキ期限ヲ定メタリ會計年  
度ハ斯ノ如ク三月三十一日ニ終ルモノト定メタルモ其年度内ノ  
收入支出ヲ悉皆同日限り終結セシムルハ到底爲シ得ヘキトコ  
ラス故ニ法律ハ其期限ヲ延長シテ翌年度ノ十一月三十日限ニ終  
結スヘキモノト爲シタリ此八箇月ノ期限ハ要スルニ猶豫期限ニ  
シテ此間ニ於テ爲スヘキ出納ハ前年度ノ殘務ニ限ルモノニシテ

新ニ前年度ノ經費ヲ用ヰテ事業ヲ爲スコトヲ許サ、ルモノトス

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

〔解〕本條ハ歲入及歲出ノ何タルヲ示シ又其總豫算中ニ編入ス可キヲ定メタルモノトス

租稅トハ政府ノ經費ニ充ツル爲メニ人民ニ賦課徵收スル金額又ハ物件ヲ云フ又其他一切ノ收納トハ政府ノ爲ス所ノ事業ヨリ收入スルモノ又ハ手数料ノ如ク租稅ニアラサル收納等ヲ指スモノニシテ例ヘハ政府ハ鐵道ヲ布設シ電信ヲ架シ郵便ヲ開キ或ハ鑛坑ヲ開堀シ或ハ諸製造品ヲ製造販賣シ(印刷局ノ製造業監獄署ニ於テ囚徒ニ工業ヲ執ラシムルカ如シ)又或ハ文書ヲ印刷販賣シ(官報其他書籍ヲ出版スルカ如シ)依テ收入シタル金額又ハ登記料ノ

如キ地券書換手数料ノ如キ金額ヲ指スモノトス此等ノ收納ハ政府ノ經費ヲ支辨スヘキモノニシテ之ヲ歲入ト稱スルナリ

一切ノ經費トハ政府カ支拂フ所ノモノ即チ官吏ノ俸給諸器物又ハ諸材料ノ購買費官廳ノ建築修繕費其他總テ官廳ヨリ拂ヒ出ス所ノモノ及政府ノ事業ニ由リテ損失シタル所ノモノ等ヲ總稱スルモノニシテ之ヲ歲出ト云フ

此歲入ト歲出トハ其項目ヲ分チテ總豫算總豫算トハ政府即チ各官廳ノ收入支出ヲ豫定シタル計算ヲ云フ中ニ編入ス可キモノトス故ニ總豫算ハ歲入豫算ト歲出豫算トヲ總括シタルモノナリ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

〔解〕例ヘハ明治二十二年度ニ於テ若干ノ定額ヲ以テ之ヲ其年度ノ

經費ニ充テタリ然ルニ明治二十一年度ニ於テ經費ニ若干ノ不足ヲ生シタリトセヨ此場合ニ於テ二十二年度ノ經費中ヨリ支辨シテ二十一年度ノ不足ヲ補フコトヲ許サス又二十一年度ノ決算ニ於テ若干ノ剩餘ヲ生シタルモ直ニ之ヲ移シテ二十二年度ノ經費ニ充ツルヲ得ス一年度内ノ經費ハ其年度ノ定額ヲ以テ支辨スヘキモノトス然ラハ一年度ノ經費決算上豫算剩餘ヲ生シ又ハ不足ヲ生シタルモ之ヲ如何スヘキ乎此事ハ憲法第六十四條第二項第六十九條本法第七條及第二十條ニ規定シタリ

斯ノ如ク甲年度ノ定額ヲ以テ乙年度ノ經費ニ充ツルコトヲ許ササルモノハ何故ツヤ是蓋シ會計ノ整頓ヲ致シ其紛雜混乱ヲ避ケ又當該官吏カ私意ヲ以テ一國ノ財政ヲ左右スルノ弊ナカシメント欲シタレハナリ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

〔解〕特別ノ資金トハ歲計豫算ヲ以テ定メタル經費豫算外ノ事業ノ基金又ハ經費ニ充ツヘキ金額ヲ云フ各官廳ニ於テ特別ノ資金ヲ有スルコトヲ許サ、ルノ理由如何ヲ釋ヌルニ官廳ニ於テ資金ノ必要アルルハ經費トシテ之ヲ支給スヘク又或ハ特ニ法律命令ヲ以テ之ヲ定ムヘキカ故ニ其他ニ資金ヲ有スルノ必要アルコトナシ然ルニ仍ホ資金ヲ有セシムルトキハ或ハ當該有司ノ專横ヲ以テ之ヲ浪費シ國家ノ財政ヲ紊ルノ恐アルノミナラス必要ナキニ資金ヲ備フルハ無用ノ事ナレハナリ

第二章 豫算

〔解〕豫算トハ何ソヤ既ニ總論中ニ説明シタルカ如ク一會計年度内



ニ於テ收入シ支出スヘキ金額ヲ豫定シタル計算即チ是ナリ本章  
ニ於テハ其豫算ノ調製法ヲ定メタリ

豫算ハ之ヲ別テ三トス(第一)ハ歳入豫算ニシテ一年度内ニ租税又  
ハ其他ノ事業ニ由リテ政府ニ收納ス可キ金額ヲ豫定計算シタル  
モノヲ云ヒ(第二)ハ歳出豫算ニシテ一年度内ニ於テ政府カ支拂ヒ  
タル經費ノ豫定計算ヲ云フ此二ノ者ヲ合シテ之ヲ(第三)ノ總豫算  
ト稱ス此章ニ定メタルモノハ第三ノ豫算ナルヲ以テ第一第二ノ  
モノモ亦共ニ包含スルモノトス

**第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ  
提出スヘシ**

〔解〕豫算ハ必ス帝國議會ニ提出シ其協議ヲ經ヘキヲ及其理由ハ余  
輩既ニ之ヲ憲法第六十四條ニ於テ説明シタリ本條ハ其提出ノ期

限ヲ定メテ前年ノ帝國議會ニ提出スヘキモノト爲シタリ例ヘハ  
明治二十四年度(明治二十四年四月一日ニ始マリ二十五年三月三  
十一日ニ終ル)ノ歳計豫算ノ協賛ヲ得ンコハ二十四年ノ議會ニ提  
出セスシテ廿三年ノ議會ニ提出スヘキモノトス是蓋シ其年ノ帝  
國議會ニ提出センコハ既ニ其年度ノ半ヲ經過シタル後ナラサル  
ヲ得ス(帝國議會ノ開期ハ今之ヲ確言スヘカラスト雖モ必ス八九  
月以後ニ在ルヘシ)故ニ之ヲ前年ノ議會ニ差出スヘキモノト爲シ  
タルナリ

**第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中  
ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ**

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ  
**第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入ス**

ヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

〔解〕經常トハ平時ニ要スルモノヨシテ臨時トハ事アルコ當リテ要スル所ノモノ是ナリ例ヘハ官吏ノ俸給ノ如キハ經常費ナリ然レハ傳染病豫防ニ費シタル費用ノ如キハ臨時費ニ属スルモノトス歳入歳出ノ總豫算ニハ經常費ノ豫算ト臨時費ノ豫算トヲ混一スルヲ得ス必ス此二者ヲ分テ之ヲ二大部ト爲サ、ルヘカラス若シ斯ノ如クセサルキハ平常要スル所ノ經費ト臨時要スル所ノモノトヲ判別スル能ハサルヨリ當該官吏ノ私アルモ之ヲ知ルヘカラサルコ至レハナリ又總豫算ヲ款項ニ分ツハ其收入及支出ノ事項ヲ明ニスル所以ニ

シテ是亦前項ト同一ノ理由ニ出ツルモノトス

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

〔解〕豫備費ヲ設ケ置クヘキコトハ憲法第六十九條ニ定ムル所ナリ本條ハ其種類ヲ示シタリ豫備費トハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補ヒ又ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノヲ云フ此豫備費ハ別テ二種ト爲セリ第一豫備金トハ第二項ニ明記スル如ク避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノニシテ例ヘハ一官廳ニ於テ其廳内諸員ノ俸給ヲ五万圓ト定メタルニ實際五万五千圓

ヲ要シタル場合ノ如シ此場合ニ其不足セル五千圓ハ豫備金中ヨリ之ヲ補ハサルヘカラス之ヲ第一豫備金ト云フ

第二豫備金トハ第三項ニ定ムルカ如ク豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノヨシテ其豫想セサリシモノトス例ヘハ内亂ノ起リタルカ爲メ要シタル費用ノ如キ是ナリ

右二種ノ豫備費ハ豫算中ニ記載シテ豫メ其支給ヲ仰カサルヘカラス而シテ一年度經費ノ不足ハ之ヲ以テ補充スヘキモノニシテ其他項ニ於ケル剩餘金又ハ後年度ノ經費ヲ以テ之ニ充ツルヲ得サルモノトス(第三條第十二條)

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

[解]本條ハ豫備金ヲ以テ支辨シタル經費ハ年度後ニ帝國議會ノ承

諾ヲ經ヘキヲ決定メタルモノニシテ是憲法第六十四條ニ規定シテ余輩ノ既ニ説明シタル所ナリ

茲ニ年度經過後トアリ年度ハ三月三十一日ニ終ルヲ以テ其年ノ帝國議會ニ提出スヘキモノナル乎惟フニ本條ノ年度經過後ト記シテ翌年ノ帝國議會ニ提出スヘキヲ命セサルヲ以テ之ヲ觀レハ此年度經過後ト云フハ十一月三十日ヲ過キ一年度ノ出納事務ヲ終リタル後ト云フノ意ナルヘシ故ニ實際ハ其翌々年ノ議會ニ提出スルヲト爲ルヘシ斯ク年度經過後タルヲ要シタルモノハ未タ其年度ノ出納事務ヲ完結セサル間ハ其豫備費ノ總額ヲ確知スル能ハサルモノト看做シタレハナリ

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

〔解〕大藏省證券トハ大藏省ヨリ發行スル債券ニシテ恰モ公債証書ノ如シ唯其期限ノ短クシテ且利子ノ安キノミ大藏省ハ此証券ヲ發行シテ一時金額ノ運轉融通ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ若シ其最高額ヲ定ムルコトナキハ大藏省ハ濫リニ之ヲ發行シテ遂ニ財政ノ混亂ヲ惹起スコトアルヘシ加之之ヲ私スルモ亦容易ナリトス故ニ其發行ノ最高額ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ經サルヘカラサルモノト爲シタルナリ

### 第三章 收入

〔解〕收入トハ租稅又ハ其他政府ノ事業等ニヨリテ總テ政府ニ收ムル所ノ金額ヲ云フ本章ハ收入ヲ徵收スルノ原則ヲ定メタルモノトス

第十條 租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收ス

ヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

〔解〕租稅ノ徵收法ハ帝國議會ノ協賛ヲ得法律ヲ以テ定ムル所ナリ又其他ノ收入ハ或ハ法律ヲ以テ或ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム故ニ政府カ其收入ヲ收納スルコトハ必スヤ此法律命令ノ定ムル所ノ時期場所及手續ニ遵ハサルヘカラス若シ之ニ反シテ何時ニテモ隨意ニ收納スルコトヲ得ルモノトセハ財政ハ到底整頓スルノ期ナク奸計私曲ノ行ハルヘキ餘地ヲ存スルニ至ル故ニ法律ハ特ニ本條ヲ定メタルモノトス

第二項ハ其收納ス可キ人ヲ定ム例ヘハ收稅官ニアラサレハ租稅ヲ收ムルコト能ハス會計官ニアラサレハ事業ニヨリ得ヘキ收入

ヲ受取ル能ハサルカ如シ是亦前項ト同一ノ理由ニ基クモノトス

### 第四章 支出

〔解〕本章ニ定ムル所ハ支出即チ政府ヨリ經費ヲ支拂フノ方法ナリ

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

〔解〕此條ハ會計年度ニ於ケル經費ノ支給法ヲ定ムルモノニシテ此條ニヨレハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘキモノト爲セリ故ニ租税又ハ其他ノ收入タルトテ問ハズ其年度内ニ於テ收入シタルモノニアラサレハ其年度ノ經費ニ充ツルヲ許サ、ルモノトス是第三條ノ規則ト相一致スルモノニシテ他ノ年度ノ定額ヲ以テ一年度ノ經費ニ供用スルヲ得サルナリ然レモ前年度經費ノ剩餘額ハ其次年度ニ操越スヘキモノナレハ

〔第二十條〕本條ノ歳入ナル語中ニハ此操越金額ヲモ亦包含スルモノト解セサルヲ得サルナリ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス  
國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

〔解〕本條ハ豫算定額使用ノ制限ヲ規定シタルモノニシテ其豫算ヲ以テ定メタル定額ヲ或目的ノ外ニ使用スルコトヲ禁シタリ故ニ例ヘハ俸給トシテ支給ヲ得タル金額ヲ官廳ノ修繕費ニ使用スルヲ得サルモノトス又加之或項目中ノ定額ニ剩餘ヲ生スルヲアルモノ之ヲ他項ノ不足セル費用ニ流用スルヲ得ス是蓋シ會計ノ混亂ヲ避ケ又國務大臣カ目的ノ外ニ使用シ又ハ流用シテ其間ニ私曲

ヲ挾ム等ノコアラシキ慮リタレハナリ  
 又第二項ニ於テハ其所管ニ屬スル收入ヲ直ニ使用スルヲ禁シタ  
 リ故ニ例ヘハ遞信大臣ハ其郵便及電信等ニヨリ收納シタル金額  
 ナ直ニ其省ノ經費ニ充ツルコト能ハスシテ一先之ヲ國庫ニ納メサ  
 ルヘカラス是出納ヲ整頓シ會計ヲ明ニスルカ爲ナリ若シ之ニ反  
 シテ各官廳ハ隨意ニ其所管ニ係ル收納ヲ使用スルコトヲ許サハ歳  
 入及歳出ノ精確ナル決算ヲ得ルコト能ハス政府ノ財政是ヨリ紊乱  
 センノミ是本條第二項ノ設アル所以ナリ

**第十三條** 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ  
 仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ  
 委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

〔解〕本條ハ國務大臣カ其所管定額ヲ使用スル方法ヲ定メタルモノ

ニシテ其官廳ニ於テ直ニ現金ノ仕拂ヲ爲スコトナク必ス國庫ニ  
 對シテ仕拂命令ヲ發スルコト、ナシタリ是亦會計ノ混雜ヲ避ケ  
 其出納事務ノ圓滑ナランコトヲ欲シタルモノナリ  
 斯ノ如ク定ムト雖モ或ハ別ニ規則ヲ定メテ他ノ官吏ニ其命令ヲ  
 發スルコトヲ委任スルヲ得ヘキモノトス是亦實際上ノ便宜ヲ計  
 ルニ在リトス

**第十四條** 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲ス  
 コトヲ得ス

〔解〕國庫ハ國務大臣又ハ其委任シタル官吏ヨリ仕拂命令ヲ發シタ  
 ルキハ其仕拂ヲ拒ムコトヲ得スト雖モ其命令ノ法律ニ反シ又ハ  
 命令ニ背キタルキハ之ヲ拂ハサルコトヲ得ヘシ例ヘハ正當ナル債  
 主ニ非サル者ニ與ヘタルモノナルカ又ハ其仕拂命令ノ他ノ官吏

ヨリ出テタル乎或ハ其官廳ニ於テ取扱ハサル或事項ノ爲メニ命令ヲ發シタル場合ノ如キ是ナリ

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス  
左ノ諸項ノ經費ニ限り國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

- 第一 國債ノ元利拂
- 第二 軍隊軍艦及官船ニ關スル經費
- 第三 在外各廳ノ經費
- 第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
- 第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

〔解〕本條ハ仕拂命令ヲ發ス可キ場合又ハ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ヘキ場合ヲ定メタルモノトス  
支拂命令ヲ與フルハ或金額ヲ受取ルヘキ權利ヲ與フルモノナリ故ニ仕拂命令ヲ發スルニハ必ス其受クル者ハ政府ニ對シテ正當ナル債主ナルカ又ハ其代理者ナラサルヘカラス正當ナル債主トハ政府ニ對シテ或物品又ハ勞力ヲ供シタルニヨリ其報酬ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云フ

政府經費ノ支拂ハ一般ニ仕拂命令ヲ以テスルコトハ前條ニ於テ説キタルカ如シ然レモ此方法ハ徹頭徹尾適用スルコト能ハスシテ或ハ現金拂ヲ爲サシメサルヲ得サルコトアリ故ニ斯カル必要ナル場合ニ於テハ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ヘキモノト爲セリ而シテ此場合ニ於テハ特ニ委任シタル官吏即チ各廳會計官ノ如シ又ハ銀行ニ其命令ヲ與ヘ或ル金額ヲ受取ラシメテ隨時必要ナル場合ニ仕拂ヲ爲サシムルモノトス

現金前渡ノ仕拂命令ヲ發シ得ヘキ場合ハ左ノ諸項ノ經費ニ限ル

第一 國債ノ元利拂○國債ノ元利拂ハ日本銀行又ハ橫濱正金銀行等ニ於テ取扱ハシムルコトアリ故ニ此等ノ場合ニ於テハ豫メ或金額ヲ交付セサルヘカラス是其現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ許シタル所以ナリ

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

右四項ニ記載シタルモノハ皆實際仕拂命令ヲ發スルコトヲ得サル場合ナリ故ニ豫メ或官吏ヲシテ現金ヲ受取ラシメ隨時仕拂ヲ爲スノ便法ヲ與ヘタルナリ

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ○本項ニ記シタルモノハ例ヘハ炭油紙筆等ノ費用ヲ云フ此等ノ費用ハ多クハ些少ノ金額ニシテ且時々仕拂フ所ノモノナリ故ニ若シ一々仕拂命令ヲ發スヘキモノトセハ實際却テ不便ヲ感スヘク且其金額ノ些少ナルヲ以テ會計上敢テ混雜ヲ生スルノ恐ナ



シ是其現金拂ヲ許シタル所以ニシテ其金額ヲ五百圓ニ限リタルモ亦之カ爲メノミ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費○場所ノ一定セサル事務所トハ例ヘハ徵兵検査所ノ如キ是ナリ此等ノ事務所ノ經費ハ一々仕拂命令ヲ發スルコト能ハス故ニ現金前渡ヲ許シタルモノトス

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル○例ヘハ電信線ノ架設費ノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ何時費用ノ仕拂ヲ要スルモ知ル可カラズ故ニ豫メ現金ニテ受取り置カシムルヲ許セリ然レモ一主任官ニ多額ノ經費ヲ前拂ニスルキハ冗費ヲ爲シ又ハ之ヲ私スルカ如キ恐アルノミナラス此制限以上ノ金額ハ事ニ當リテ之ヲ國庫ヨリ受取ラシム

ルモ敢テ不可ナシトス是此制限アル所以ナリ

### 第五章 決算

〔解〕本條ハ決算即チ一會計年度内ニ於テ收入シ又ハ支出シタル金額ヲ現況ニ就テ計算スルコトヲ定メタルモノトス  
決算モ亦豫算ノ如ク之ヲ歳入決算歳出決算及總決算ノ三種ニ分ツコトヲ得ヘキナリ

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出ノ部

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

支拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

〔解決〕 會計上最モ必要ナルモノナルカ故ニ會計年度ヲ終リタル後總決算ヲ調製シテ之ヲ帝國議會ニ提出セサルヘカラス蓋シ其年度内ニ於テ收入シ支出シタル現況ヲ詳コシ又兼テ將來ノ歲計ヲ定ムルニ其參考ト爲ルモノナレハナリ  
而シテ其決算ハ最モ精確ニシテ釐毫モ誤謬ナキヲ要ス故ニ其之

ヲ議會ニ提出スルニ先テ會計検査院ノ検査ヲ受ケサルヘカラス  
會計検査院トハ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本其他會計上ノ事項ヲ審査判定スルヲ司ル官衙ニシテ検査官ハ不羈獨立ノモノタルヲ例トス(我現行官制ニ於テハ否ラス)故ニ其検査ヲ經テ精確ナルヲ証明シタル上ニアラサレハ之ヲ議會ニ提出セシメサルモノトス

其總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用ヰテ之ヲ經常ト臨時トノ二部ニ大別シ又其各部ヲ分テ款項ヲ設クヘキモノトス而シテ其款項中ニハ左ノ事項ノ計算ヲ明記セサルヘカラサルモノト爲シタリ

歲入ノ部ニハ

歲入豫算額 即チ豫算ニテ定メタル收入ノ總額ナリ

調定濟歲入額 即チ實際ニ付テ租稅ニテ收入スヘキ金額若干作業其他ニテ得ヘキ金額若干ト調査シタル金額ヲ云フ

收入濟歲入額 即チ政府ニ得ヘクシテ其年度内ニ收納シタル金額ナリ

收入未濟歲入額 前項ニ反シテ政府ニ得ヘクシテ未タ收メサル金額ヲ云フ

歲出ノ部ニハ

歲出豫算額 即チ豫算ニテ定メタル經費ノ定額ヲ云フ

豫算決定後増加歲出額 豫算ヲ定メ議會ノ協贊ヲ得タル後或事故チ生シテ經費ヲ要スルコトアリ本項ハ即チ之ヲ云フモノニシ

テ豫備金ヲ以テ支辨スヘキ歲出ナリ

仕拂命令濟歲出額 即チ其會計年度内ニ於テ實際ニ費シタル總

額ヲ云フ

翌年度操越額 即チ剩餘ニシテ收入ノ支辨ニ超過シタル部分ナリ

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

〔解〕總決算ヲ帝國議會ニ提出スルニハ必スヤ會計検査院ノ検査ヲ受ケサルヘカラサルコトハ前條ニ於テ之ヲ説キタリ其検査ヲ受ケタルキハ會計検査院ハ検査報告ヲ作リテ其精確正實ナルコトヲ証明ス故ニ此報告書ハ必ス其決算書ニ添付セサルヘカラス又加之

左ノ三種ノ書類ヲモ亦之ヲ添付スヘキモノト爲セリ蓋シ此等ノ書類ハ其決算ノ正否如何ヲ知ルコ缺クヘカラサルモノナレハナリ

第一 各省決算報告書即チ各省ニ於テ其所管ノ收入經費ヲ決算シタルモノナリ

第二 國債計算書 即チ其仕拂ヒタル國債元利ノ計算及ヒ現在ノ國債ノ總額等ヲ記載シタルモノナリ

第三 特別會計計算書 特別會計(其何タルハ第三十條ニ於テ説明スヘシ)ニ於テ計算シタル計算書ヲ指スモノトス

### 第六章 期滿免除

〔解〕期滿免除トハ或ル期限ノ經過ニ由リ政府カ支拂ノ義務ヲ免レ又ハ政府ニ對シ納ムヘキ義務ヲ免ル、ナリ

本章ニ規定シタル期滿免除ハ普通民事上ノ期滿免除ト其性質ヲ異ニスルコトナシト雖モ其義務ハ人民相互ノ間ニアラスンテ人民ト政府トノ間ニ存スル義務ニ關ル然シテ法律カ普通ノ期滿免除ト其期限ヲ異ニシ之ヲ短縮シタル所以ノモノハ會計ノ事ハ毎年度ニ正確ナル決算ヲ爲スヘキモノナレハ彼ノ普通期滿免除ノ期限ノ如ク延長スルトキハ會計上ノ不都合少カラサレハナリ故ニ其義務ノ普通民事上ノ義務ト異ナラサルモノ(例ヘハ建築修繕ノ費錢物品賣買ノ代價等ノ如シ)ト雖モ普通ノ期滿免除ニ據ラスシテ亦本章ノ規則ニ從フヘキモノトス

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ

以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

〔解〕本條ハ政府ノ負債ヲ仕拂フヘキ義務ノ期滿免除ヲ規定シタルモノニシテ其期限ハ滿五箇年ト爲シタリ故ニ此期限ヲ經過シタル後債主ヨリ支出トハ仕拂ヲ委任シタル官吏又ハ銀行ヨリ請求スルモノナク又ハ仕拂トハ債主ヨリ直ニ請求スルモノナク云フヲ請求シ其證據顯然タルモ政府ハ其負債ヲ仕拂フヘキモノニアラス

此期滿免除ノ期限ハ何レノ日ヨリ起算スヘキヤ法律ニ年度經過後ト記載セリ所謂年度經過後トハ四月一日以後ヲ云フカ若ハ十二月一日以後ヲ指スモト爲ス其理由トスル所ヲ聞クニ曰ク年度ハ四月一日ヨリ改マルト雖モ十一月三十日マデハ仍前年度ノ出納事務ヲ取扱フモノニシテ債

主ハ此間ニ支出又ハ仕拂ヲ請求シ得ヘキモノナレハナリト然レモ余輩ノ解スル所ハ之ト異ナリ四月一日ヨリ期滿免除ヲ計算スヘキモノト信ス論者ハ出納事務完結ニ關スル猶豫期限ヲモ年度内ニ計算スヘシト云フモ此猶豫期限ハ唯其出納事務ヲ完結スル爲メニ出納事務官ニ與ヘタルニ過キヌシテ決シテ之ヲ一年度ニ込入ルヘキモノニアラス其年度ハ三月三十一日ヲ以テ完結スヘキモノニシテ年度ハ此時ニ既ニ經過シ終リタルモノト云ハサルヘカラス是余輩カ四月一日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算スヘシト云フ所以ナリ  
斯ク如ク定ムト雖モ若特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルトモ本條ノ期限ニ拘ハラス期滿免除ヲ得ヘキモノトス

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿

五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

〔解〕本條ハ政府ニ納金スヘキ義務ノ期滿免除ヲ規定シ其納ムヘキ年度ヲ經過シタル後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ル、モノトナシタリ然ラハ若シ五年内ニ上納ノ告知ヲ受ケ仍納金セサルトキハ何レノ日ヲ以テ期滿免除ヲ得ヘキカ惟フニ此場合ニ於テハ期滿免除ヲ中斷シタルモノナルカ故ニ其上納期限ヲ經過シタル後更ニ滿五箇年ヲ以テ期滿免除ヲ得ヘキモノト信ス

本條ノ規則モ亦特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノニハ適用ス入カラサルモノトス

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

〔解〕歲計剩餘トハ收入ノ支出ニ超過シタルモノヲ云ヒ定額繰越トハ甲年度ニ於テ定メタル定額ヲ乙年度ニ差送ルヲ云フ豫算外收入トハ豫算ニ於テ定メタル收入以外ニ收メタル金額ヲ指シ又定額戻入トハ或ル經費中ヨリ仕拂ヲ爲シタルニ其後ニ至リテ返納セル金額ヲ囊キニ引出シタル經費ノ定額中ニ戻入ル、ヲ云フ本章ニ於テハ右四箇ノ事柄ニ關スル處分法ヲ定メタルモノナリ

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

〔解〕本條ハ剩餘金額ノ處分法ヲ定メタルモノニシテ甲年度ノ定額ニ於テ剩餘アルトキハ之ヲ乙年度ニ差送ルヘキモノト爲シタリ是當然ノコトニシテ敢テ説明ヲ俟タスシテ明カナリ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明記シタルモノ及二年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クベカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

〔解〕本條ニ於テハ定額繰越ノ事ヲ規定シ甲年度ノ經費定額ニシテ或ル事故ニ由リ其支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ乙年度ニ繰越シ同一ノ目的ニ使用スルヲ許セリ例ヘハ一年度内ニ竣功スヘキ見込ヲ以テ或ル官署ヲ建築センガ爲メ明治二十二年度ニ於テ其經費トシテ二十萬圓ヲ支給シタリ然ルニ其年度ヲ經過シテ仍ホ竣功セサルトキハ其定額ノ剩餘ヲ其儘ニ据置キ其工事ヲ竣ハラシムルカ如シ  
法律カ定額繰越ヲ許シタル場合ハ左ノ如シ

第一 豫算ニ於テ特ニ明記シタルトキ

第二 一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クベカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ其年度内ニ經費ノ支出ヲ終ラサリシトキ  
茲ニ避クベカラサル事故ノ爲ニ云々トアルヲ以テ隨意ニ其事業ヲ中止又ハ遅延シタルトキハ假令未タ經費ノ支出ヲ終ラサルモノ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルヲ許サス其未タ支出セサル金額ハ第二十條ノ歲計剩餘ヲ以テ處分セサルヘカラズ然シテ若シ翌年度ニ亘リテ其事業ヲ繼續セシム欲スルトキハ更ニ豫算ニ記載シ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルモノトス

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支拂殘額ヲ竣

### 功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

〔解〕本條モ亦定額繰越ノ事ヲ規定スルモノナリ  
 本條ノ定額繰越ハ數年ニ互ルモノニシテ繼續費ヲ定メタル場合  
 ニ關ル例ハ廣大ナル建物ヲ建築スルカ又ハ市區ヲ改正スル場  
 合ノ如ク其竣功數年ノ後ニアルトキハ豫メ其總額ヲ定メ毎年若  
 干ノ經費ヲ其年限間支給セシム此場合ニ於テ甲年度ニ於テ剩餘  
 ナ生スルモ第二十條ニ依リテ處分スルニ及ハス之ヲ乙年度ニ繰  
 越シ又乙年度ニ於テ剩餘ヲ生スルトキハ之ヲ丙年度ニ繰越ス斯  
 ノ如ク順次繰越使用シテ其竣功年度ニ至リ仍ホ剩餘ヲ生スルト  
 キハ茲ニ始テ第二十條ニ從ヒ處分スヘキモノトス然シテ若シ其  
 年度ヲ終ルモ未タ其工事ノ竣功セサルトキハ如何スヘキカ這ハ  
 前條ニ依リテ處分スヘキモノト信スルナリ

### 第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年

度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入  
 ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタ  
 ル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル  
 コトヲ得

〔解〕本條ニハ豫算外收入及定額戻入ノ事ヲ規定シタリ  
 誤拂過渡トハ仕拂フヘキモノニアラスシテ仕拂ヒタルヲ云フ故  
 ニ之ヲ受ケタル者ハ其金額ヲ返納セサルヘカラス然シテ若シ其  
 受取リタル年度ニ之ヲ返納スルトキハ定額戻入トナルモ其後ノ  
 年度ニ至リ返納シタルトキハ豫算外收入ヲ以テ處分シ其年度ノ  
 收入ニ組入ルヘキモノトス又前年ニ於テ收納スヘキ金額ニシテ  
 現年度ニ於テ收納シ其他豫算ニ計算セズシテ收納シタル金額ハ



總テ之ヲ豫算外收入ト爲シ現年度ノ收入ニ組入ル、モノトズ  
又前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ  
仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、モノトナセリ前金渡トハ第十  
五條ニ定メタル場合ヲ云ヒ概算渡トハ精算ヲ爲サス相當ノ金額  
ヲ拂渡シタルモノヲ云フ又甲ノ定額中ヨリ一時乙ノ經費ヲ仕拂  
ヒ他日之ヲ取戻スモノヲ繰替拂ト云フ

此定額戻入ハ其仕拂ト返納ト同年度ニアルコトヲ要ス若シ甲年度  
ニ於テ仕拂ヒ乙年度ニ返納ヲ得タルトキハ豫算外收入ニ關ルヲ  
以テ之ヲ乙年度ノ歳入ニ組入ルヘキモノトス

### 第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

〔解〕本章ニハ政府ノ工事及物件ノ賣買貸借ノ事ヲ規定ス政府ノ工  
事トハ政府ニテ爲ス所ノ官署其他ノ建物道路溝渠鐵道電線等ノ

建築造設又ハ其修繕等ヲ指スモノニシテ物件ノ賣買貸借トハ政  
府ニ於テ其需要ノ物品ヲ買入レ又ハ借入レ或ハ政府ノ製造又ハ  
所有ニ係ル物件ヲ賣却又ハ貸與スル等ヲ云フ此等普通民事上ノ  
所爲ハ政府隨意ノ契約ニ放任シ敢テ規程ヲ設クルニ及ハサルカ  
如シト雖モ之ヲ其隨意ニ放任スルキハ奸商巧ニ顯要ニ媚ヒ其工  
事ヲ一手ニ引請ケ或ハ獨リ利益ヲ壟斷シ官ニ政府ノ會計上ノ不  
利ナルノミナラズ苞苴私謁盛行ハレ其弊害實ニ鮮少ナラズ本  
章ノ特ニ之カ規則ヲ設ケテ制限ヲ附シタルハ蓋シ之カ爲メノミ  
第二十四條 法律命令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物  
件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於  
テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ  
第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル

- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲

ストキ

- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第十 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

〔解〕本條ハ政府ノ工事及物品ノ賣買貸借ハ必ズ競争ニ附スヘク私約ヲ以テ一會社又ハ一個人ニ請負ハシメ又ハ拂下ケ若クハ買上ケル等ノ事ヲ禁スルノ原則ト其例外ノ場合トヲ定メタルモノトス法律カ本條ノ原則ヲ定メテ隨意ノ約定ヲ以テスルコトヲ禁シタルモノハ前言ノ如ク一個人ニ私スルノ弊害ヲ避ケント欲スルニ在リ故ニ其工事又ハ賣買貸借等ノ民事上ノ契約ハ總テ公告ヲ爲シ其同業者ノ競争ニ附スヘキモノトセリ斯クスルキハ誠ニ公平無私ニシテ害ニ苞苴ノ弊害ヲ除クニ足ルノミナラス又兼テ會計上ノ冗費ヲ省クヲ得ヘシ何トナレハ其同業者ノ競争ニ附スル故ニ工事ノ請負金及物品買上代價ハ自ラ廉ニシテ又物品拂下代價等亦自ラ高價ト爲ルノ傾向アルヲ以テナリ然レモ如何ナル場合ニ於テモ必ズ本條ノ手續ヲ履マサルヘカラ

スト定ムルキハ或ハ實際不便ナルカ又ハ行政上ノ不都合ヲ生スル等ノコトアリ又或ハ此規則ハ到底行フヘカラサル場合アリ故ニ法律ハ十四ノ場合ヲ列記シ其例外ト爲シタリ請フ左ニ其各場合ニ付テ理由ヲ略説セン

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ○例ヘハ專賣特許品ヲ買入ル、場合又ハ某會社ノ有スル建物ヲ借入ル、ノ必要アル場合ノ如シ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ○特種ノ物質トハ他ニ類ナキ物ニシテ例ヘハ宇治ノ茶上州ノ蠶絲ト云フカ如シ又特別使用ノ目的アル物トハ他所又ハ他人ニテモ生産又ハ製造スレトモ特ニ或地又ハ或人ノ生産又ハ製造ニ係ル物ヲ

使用セント欲スル場合ヲ云フ例ハ某會社ノ製造品又ハ某地產出ノ金銀ヲ見本トシテ外國ニ送付セントスル場合ノ如シ此等ノ場合ニ於テモ特ニ其生産製造地又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ買入ル、ニアラサレハ仍競争ニ付スヘキモノトス

第五 特種ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造ニ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ○是亦特種ノ物品ニシテ某ナル技術家ノ製造シタル物ニ限ル場合はナリ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合○例ハ東京神田區錦町一丁目十二番地ニ建設セル建物ヲ使用センカ爲メ其一家屋ヲ買入ル、トキ若クハ厚生館ノ如キ廣大ナル建物ヲ借入ル、トキノ如シ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ○軍艦ノ如キハ普通ノ物品ト異ニシ

テ特別ノ性質ヲ要シテ造船所多キモ特ニ某造船所ノ構造ニ關ル軍艦タルヲ要スル等ノトアリ故ニ須要ニ應シテ隨意ノ約定ヲ許サ、ルヲ得サルナリ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ○軍馬モ亦軍艦ト同シク特別ノ物件ニ係ルモノナリ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ以上七項ハ其工事物品又ハ技術者製造者ノ特種ナルト又ハ特別ノ目的ヲ有スルカ故ニ競争ノ原則ヲ適用スヘカラサル場合トス

第二 政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ○例ハ戰爭中堡壘ヲ築キ或ハ糧食ヲ買入ル、場合ノ如シ

此場合ニ於テ之ヲ公告シテ競争ニ付スルルハ其祕密ヲ暴白スル

ニ至ルヲ以テ秘密ニ隨意ノ契約ヲ結フコトヲ許セリ即チ行政上ノ不都合アル場合ナリトス

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ○例ヘハ戰乱又ハ天災事變ニ際シ米穀ヲ買入レ又ハ建物ヲ借入ル、場合ノ如ク毫モ躊躇スヘカラスアルトキニ云フ

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

右三項ノ場合ニ於テハ其事ノ急遽ニ出テ又ハ價額ノ少キカ爲メ隨意ノ約定ヲ許スモ毫モ弊害ヲ生スルノ恐ナキノミナラス仍ホ公告シテ競争ニ附スルコトヲ要セハ實際却テ不便ナルヲ以テ之

ヲ例外ニ措キタルモノトス

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ僱役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ僱役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

右三項ノ場合ニ隨意ノ約定ヲ許シタルハ毫モ弊害ヲ生スルノ恐アルコトナシト認メダレハナリ然レモ第十四項ノ場合ニ於テハ決シテ其弊ナシト云フヘカラス何トナレハ一個人ニ廉價ニ拂下チ爲スカ如キ恐アルヲ以テナリ然モ法律カ之ヲ許シタルハ畢竟此

等物品ノ賣拂ノ如キハ可成市場ノ景況ヲ觀察シ隨時適當ノ代價ヲ以テ賣拂ヒ其損失ヲ避ケサルヘカラス加之若シ之ヲ公告シテ競賣ニ付スルトキハ勢ヒ人民ノ工業ト競争ヲ生シ以テ人民ノ生産業ヲ萎靡セシムルノ恐アルヲ以テナリ

### 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

〔解〕軍艦兵器彈藥等ノ製造ハ多クハ外國ノ會社ニ注問ス而シテ其注問スルニ當リテハ必ズ手附金ヲ要ス故ニ本條ハ此等ノ物件ニ限リ前金拂ヲ許セリ又內國ノ會社ニ製造ヲ命スル場合ニ於テモ此等ノ物件ハ成ル可ク精良ヲ要スルカ故ニ之レヲ製造スルニハ巨額ノ資本ナカルヘカラス然ルニ若シ其會社ニシテ資金ノ充分ナラサル等ノ事情ニヨリテ自ラ粗悪ニ流ル、ノ恐ナキ能ハス故

ニ斯ル場合ニハ前金拂ヲ爲シ充分其技術ヲ盡サシメサルヘカラス加之其戰爭中ニ在テハ會社ハ充分信ヲ政府ニ措カサル等ヨリシテ自ラ其製造ノ命ニ從フニ躊躇スルヲアリ故ニ其信用ヲ確メ製造ヲ遂ケシムル爲メニハ前金拂ヲ爲スノ必要ナルコトアリ是法律カ前金拂ヲ許可シタル所以ナリ然レモ其他ノ場合ニ於テハ總テ之ヲ許サス是蓋シ前金拂ナルモノハ契約ノ變例ニシテ普通ノ場合ニ用ユヘキモノニアラス加之前金拂ヲ許ストキハ實際弊害ヲ醸スノ恐アリ政府會計上ニ於テモ甚々錯綜紛乱ヲ生シ從テ會計ノ精確ヲ失スルモノナレハナリ

### 第九章 出納官吏

〔解〕本章定ムル所ハ出納官吏ノ責任及其執務上ノ制限ヲ定メタルモノナリ所謂出納官吏トハ政府ノ收入及支出ヲ管掌スル所ノ官

吏ヲ云フ此官吏ハ實際會計ノ事務ニ預ルヲ以テ最モ正實廉潔ナルヲ要ス故ニ其官吏ヲシテ其事務上ニ責任ヲ負ハシメ又其執務上ニ制限ヲ設ケタルハ當然ノ事ナリトス

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

〔解〕本條ハ出納官吏ノ責任ヲ規定シ其管掌ニ關ル現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フヘキモノニシテ若シ其事柄ニ付過失アリト申告セラレタルキハ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ受クヘキモノト爲シタリ故ニ若シ會計検査院ニ於テ過失アリト判決シタルキハ出納官吏ハ之ヲ賠償セサルヘカラサルモノトス斯クノ如ク特ニ其責任ヲ規定シタルモノハ是其職務ヲ重シタルハナリ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非ザレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

〔解〕本條ハ出納官吏ノ責任解除ノ事ヲ規定シタルモノニシテ出納官吏ハ其管掌スル所ノ金錢物件ニ付キ責任ヲ負フト雖モ水火盜難等ノ天災又ハ抗拒スヘカラサル事變ニヨリ紛失毀損シタル場合ニハ其責ヲ負フヘキニアラス是普通一般ノ責任負擔ノ原則ニ基キタルモノナリ然レモ出納官吏ハ唯其水火盜難又ハ其他事故ニヨリ已レノ過失ニアラサルヲ証明シタルノミチ以テハ其責任ヲ解除スルニ足ラス必スヤ會計検査院ニ申告シ其証明ヲ爲シテ責任解除ノ判決ヲ得サルヘカラス斯クノ如ク特ニ其判決ヲ要

シタルモノハ出納官吏ノ責任ヲ重視シタルモノニシテ輒ク其責任ヲ免カレシムルコトナカラシメタルモノナリ  
 責任解除トハ其紛失毀損ハ出納官吏ノ過失ニ基カスシテ其官吏ハ之ヲ賠償スルノ責ナシトスルモノナリ云フ  
 保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實トハ之ヲ保管スルコト付キテハ如何ナル方法ヲ以テスルモ到底盜難ヲ免カル能ハス又ハ火災ヲ避ケルコト能ハサルヲ云フ其事實避ケ得ヘカラサルヤ否ヤハ事實論ニシテ會計検査院ノ認定ニ一任スヘキモノトス

**第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ**

〔解〕出納官吏ハ前二條ニ定ムルカ如ク其過失ニ出シタル現金物品ノ賠償ヲ爲スノ責任アルヲ以テ之ヲ任用スルニ當リ特ニ身元保

證金ヲ納メサルヘカラスト爲スコトアリ然レモ此事ハ其時宜ニ從ヒ決スヘキモノナルカ故ニ本法ニ於テ之ヲ定ムヘカラスト是ヲ以テ本條ハ之ヲ勅令ニ讓ルコト、爲シタリ

**第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス**

〔解〕仕拂命令ノ職ハ國務大臣ニ於テ管掌スヘキモノナレモ時トシテハ之ヲ或官吏ニ委任スルコトヲ得ヘシ〔本法第十三條〕此場合ニ於テ其官吏ハ現金出納ノ職務ト相兼任セシムルコトヲ得スト爲セリ是此兩職ヲ相兼セシムルトキハ金錢出納ノ權ハ其官吏一人ノ手ニ歸スルカ故ニ自ラ不正ノ所業ヲ爲スコ最モ便利ニシテ或ハ官金ヲ私用スルノ恐アルヲ以テナリ

**第十章 雜則**



〔解〕本章ニ於テハ前數章ニ於テ規定スヘカラサル會計法上ノ規則ヲ定メタリ故ニ之ヲ雜則ト題シタルナリ

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

〔解〕本條ハ特別會計ノ事ヲ定メタリ

特別會計トハ普通會計ノ規則タル前數章ニ定ムル所ノ規則ヲ適用シ難キ事情アルヲ以テ特ニ法律ニ依リ定メタル方法ヲ以テ處理スル所ノ會計ヲ云フ而シテ其特別會計ヲ設置スルハ尋常普通ノ場合ニアラスシテ必ス本法ニ準スヘカラサル必要アル場合ニ限ルモノトス斯ノ如ク特別會計ハ法律ニ反スル特別例外ノ場合ナルヲ以テ其之ヲ設置スルニハ必ス法律ヲ以テスルコトヲ要シ

タルナリ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

〔解〕國庫金ハ通常大藏省金庫局ニ於テ取扱フヘキモノナレド政府ノ都合ニヨリ或ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得ヘシ蓋シ其取扱ヲ日本銀行ニ委託スルハ實際取扱上最モ便宜トスル所ナリ故ニ日本銀行條例第十三條ニ於テモ亦此事ヲ規定シ又實際ニ於テモ既ニ之ヲ該銀行ニ取扱ハシムルコト、ナシタリ而シテ之ヲ命スルニハ敢テ法律又ハ勅令ヲ以テスルニ及ハス大藏大臣ハ便宜之ヲ命シ得ヘキモノトス

第十一章 附則

〔解〕附則トハ本法ノ規則中ニアラサル規則ニシテ此法律ヲ施行スルニ當リテ必要ナル條件ヲ規定シタルモノトス

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セザルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

〔解〕此條ハ會計法ノ施行期限ヲ定メタルモノトス  
帝國議會ニ關涉シタル規則ハ第五條第六條第八條及第九條等ナリ故ニ此等ノ規則ヲ行フハ必ス帝國議會開會ノ後ナラサルヘカラス然レモ其他ノ規則ハ明二十三年四月一日ヨリ施行スルモノトス又決算ニ係ル條項即チ第十六條第十七條ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行スルモノト爲セリ故ニ明二十三年初度ノ帝國議會ニ於テ二十四年度ノ豫算案ヲ議スルトキハ二十

四年度ノ分ヨリ同條ノ規則ヲ適用スルモノニシテ二十三年度マテハ從前ノ規則ニ從フモノトス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

〔解〕從前ノ規則ニシテ此法律ト相抵觸スルモノハ本法ノ各條項ヲ施行スルマテ實行スルト雖モ本法ヲ施行スルト同時ニ廢止ニ歸スヘキモノトス

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令  
ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依  
ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義

大藏大臣兼内務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	子爵森有禮
逓信大臣	子爵榎本武揚

### 貴族院令

〔解〕帝國議會ハ貴族院及衆議院ヲ以テ成立ス故ニ帝國議會ノ協贊ヲ得ヘキ議案ハ必ス兩議院ノ議決ヲ經サル可ラス夫レ然リ兩議院ハ輔車唇齒ノ關係ヲ有シ互ニ輕重アルヘキナシ然ルニ衆議院議員選舉ノ條規ヲ發布セラル、ヤ之ヲ法律ト稱シ勅令ト稱セス而シテ貴族院議員ノ組織選舉ノ條項ヲ發布セラル、ヤ之ヲ勅令ト云ヒ法律ト云ハス其之ヲ區別シタルハ如何ナル理由ニ基クヤ

蓋シ貴族院ハ天皇ノ隨意ニ爲シ給ヘル議院ナレハ永遠確定ノ性質ヲ有スヘキ法律ト稱セスシテ之ヲ勅令ト稱スル所以ナラン故ニ貴族院議員ノ選出等ニ關スル事ハ何時之ヲ改正セラル、ヤ知ルヘカラサルナリ然レモ本令第十三條ニ依リ本院ノ議決ヲ經サル可カラサレトモ衆議院ノ議決ヲ經ルヲ要セサルナリ

### 第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者
- 四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ勅任セラレタル者
- 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

〔解〕本條ハ貴族院ニ列スヘキ議員ノ種類ヲ規定セリ

- (一) 皇族○皇室典範第三十條ニ曰ク皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ下然レモ本令第二條ニ於テ皇族ノ男子トアルヲ以テ皇族ノ女子ハ之ヲ除クヘキモノトス皇族ヲシテ議院ニ列セシムルハ皇族ハ皇室ト唇齒ノ關係アルヲ以テナリ
- (二) 公侯爵○公侯トハ華族ノ爵位ノ階級ナリ公侯爵ヲ有スル者ヲシテ議院ニ列セシムルモノハ蓋シ公侯爵ノ華族ハ皇室ノ恩寵殊遇ヲ受ケ且ツ其資産モ富裕ナルヲ以テ皇族ト同シク無報酬ニテ議會ニ列シ國事ヲ議セシムルナリ
- (三) 伯子男爵ノ華族モ亦皇室ノ恩寵殊遇ヲ蒙リ且ツ其資産モ富裕ナルヘシト雖モ公侯爵ノ華族ニ比スレハ概シテ劣等ノモノト謂

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

○貴族院令

ハサルヲ得ス殊ニ伯子男爵ヲ有スル者ハ其數多クシテ悉ク之ヲ議會ニ出席セシムルヲ得サルヲ以テ各其同爵中ヨリ勅令ニ定ムル人員ヲ選舉セシメ又其議員ニハ歳費ヲ給與スルナリ

(四) 國家ニ勳勞又ハ學識アル者ハ華士族平民ヲ論セス特ニ貴族院ニ列セシムル所以ハ是等ノ者ハ皇室ニ對シ最モ忠實ニシテ皇室ノ藩屏タル貴族院ノ議員タルニ適當スルヲ以テナリ

(五) 土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直税國稅ヲ納ムル者ハ其國家ヲ思フコトノ切ニシテ又利害ノ關係ヲ有スルコト大ナリトス故ニ各府縣ヨリ其土地若クハ工業商業ヨリ其納稅額ノ最多ナル者十五人中ヨリ一人ヲ互選シ且ツ勅任セラレタル者ヲ以テ議員ト爲スナリ

〔解〕皇室典範第十四條ニ據ルニ皇太子皇太孫ヲ除ク外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トセリ

第二條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

〔解〕本條ハ公侯爵ヲ有スル者ノ議院ニ列ス可キ年齢ヲ定メタルナリ議員タルノ能力ハ衆議院ハ三十年ヲ以テシ皇族ハ二十年ヲ以テシ本條ハ二十五年ヲ以テスルハ別ニ理由ノ存スルニ依リ差等ヲ設ケタルニアラス

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

〔解〕本條ハ伯子男爵ノ議員ハ其任期七箇年ナルコトヲ定メタルナリ又第二項ハ議員ノ數ヲ制限シタルモノナリ蓋シ伯子男爵ノ華族ハ其數多キヲ以テ悉ク之ヲ議院ニ列セシムルコトヲ得サルヲ以テ其同爵中ニ於テ其五分ノ一以下ノ議員ヲ選出セシムルナリ

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

〔解〕國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ノ數ニ制限アルヘキナシ故ニ唯勅命ヲ以テ其人ヲ選拔シ終身議員タルノ恩遇ヲ與ヘラル、ナリ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直稅國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タル

ヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔解〕本條ハ各府縣中ニ在リテ直稅國稅ヲ納ムル最モ多額ナル者十  
五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ且ツ勅任セラレタル議員ハ其任期七  
箇年ナルコトヲ定メタルナリ

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ  
工業商業ニ付多額ノ直稅國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議  
員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

〔解〕貴族院ヲ組織ス可キ議員ハ皇族華族ヨリ選出スルヲ以テ本則  
トス故ニ國家ニ勳勞アル者學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ  
工業商業上ヨリ多額ノ直稅國稅ヲ納ムル者ヲ以テ議員ト爲スカ  
如キハ例外ナリ又特典ナリ而シテ是等ノ輩ハ必スシモ華族タラ  
サルヲ保スヘカラスト雖モ平民及士族ハ蓋シ其多數ヲ占ムルナ

ラン故ニ此特種ノ議員ハ有爵即チ華族ヨリ選出シタル議員ヨリ  
多キニ過クテ得サルナリ若シ夫レ特種ノ勅任議員ナシテ有爵  
議員ノ數ニ超過セシムルキハ貴族院ノ本則ニ違ヒ或ハ衆議院ト  
稍同一ナル状態ヲ顯ハスノ嫌アレハナリ

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決  
ス

〔解〕本條ハ貴族院ノ職務ヲ規定シタルナリ抑モ貴族院ハ主トシテ  
皇室ヲ補翼スル爲メニ設ケラレタルナリ故ニ本院ハ主トシテ天  
皇ノ諮詢即チ御下問ニ應ヘ奉リ且ツ華族ニ與ヘラレタル特權ニ  
關ル條規ヲ議決スルナリ○特權トハ特ニ其者ノミノ有スル權利  
ニシテ一般ノ者ノ有スルコトヲ得ヘキ權利ニアラサルナリ即チ  
本條ニ曰ヘル華族ノ特權トハ華族タル者ノ特ニ有スル權利ニシ

テ士族平民ノ有スルコトヲ得サル所ノ權利ナリ假令ハ華族ハ世襲財産トテ子々孫々ニ至ルマテ其債權者モ之ヲ差押フルコトヲ得サル財産ヲ設クルコトヲ得ルカ如キハ其一例ナリ

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル争訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

[解]本條ニ云ヘル議員ノ資格及選舉ニ關ル争訟云々ハ夫ノ特種議員則チ本令第一條第四項及第五項ノ議員ヲ云フニアラスシテ主トシテ同條第三項ノ議員ヲ見タルナラン然リ而シテ其争訟ヲ司法裁判所ニ於テ之ヲ審理セシメサル所以ノモノハ蓋シ本院ハ天皇ノ特ニ開設シ給ヘル議院タルノミナラス若シ司法裁判所ニ於テ公ケコ争訟ヲ爲スルハ或ハ華族ノ品格ヲ汚スノ恐ナキニアラ

サレハナリ而シテ其ノ判決ニ關ル規則ハ本院之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘキモノト爲ス

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スルキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

[要]本條第一項ノ議員ハ議員タルノ品格ヲ汚シタル者ナルヲ以テ之ヲ除名スルナリ

第二項ハ議員ノ除名ハ重大ノ事ナルヲ以テ勅裁ヲ請フ可キモノト爲シタルナリ而シテ其除名ヲ衆議院ノ如ク議員ノ公裁ノミニ



任セシテ更ニ勅裁ヲ請ハシムルハ屢述フル如ク本院ハ天皇ノ  
特ニ開カセ給フ議院ナレハナリ

第三項ノ一旦除名サレタル議員ハ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員  
タルコトヲ得サルハ其者ノ議員タルニ差支ナキヤ否ヤヲ取調ヘ  
タル上ニアラズシテ輕忽ニ之ヲ選出シ重ネテ議會ノ秩序ヲ紊リ  
再ヒ除名スルニ至ルコトアルヘキヲ以テナリ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラ  
ルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ  
任期間其ノ職ニ就クヘシ

〔解〕貴族院ノ議長副議長ニ勅任セラレタル者終身議員タルモ其任  
期ハ七箇年ナリトス而シテ被選議員ヨリ議長副議長ニ勅任セラ

レタル者ハ其議員タルノ資格年限ヨリ永ク其職ニ就クコトヲ得  
サルナリ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

〔解〕此ノ貴族院令ニ定メサル議事法ハ議院法ニ從フヘキモノトス

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族  
院ノ議決ヲ經ヘシ

〔解〕將來時勢ノ變遷ニ依リ此ノ勅令即チ貴族院令ノ條項ヲ改正増  
補スルトキ貴族院ノ議決ヲ經ヘキモノトス

大日本  
帝國 憲法及附属法精義 畢

正誤

五十二頁六行

費額ハ員數ノ誤

五十五頁九行

從九位ハ從八位ノ誤

同 頁同行

十八等ハ十六等ノ誤

本書ハ印刷急速ヲ要シタルカ爲メ校正疎漏ニ涉リ誤字脱字等必ス多  
カルヘシ今一考之ヲ訂正スルニ違ナシ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

版權登錄

明治二十二年三月八日印刷  
明治二十二年三月十一日出版

定價金五拾錢

著作者

東京府神田區錦町壹丁目貳番地寄留  
上林敬次郎

著作者

東京府麴町區飯田町五丁目廿二番地寄留  
吉田左一郎

著作者兼  
發行者

東京府神田區錦町壹丁目十二番地寄留  
薩摩正邦

發行者

東京府日本橋區通三丁目八番地寄留  
岡嶋眞七

印刷者

東京府京橋區南鍋町貳丁目十一番地  
松本義保

發行所

東京府神田區錦町壹丁目十二番地  
時習社

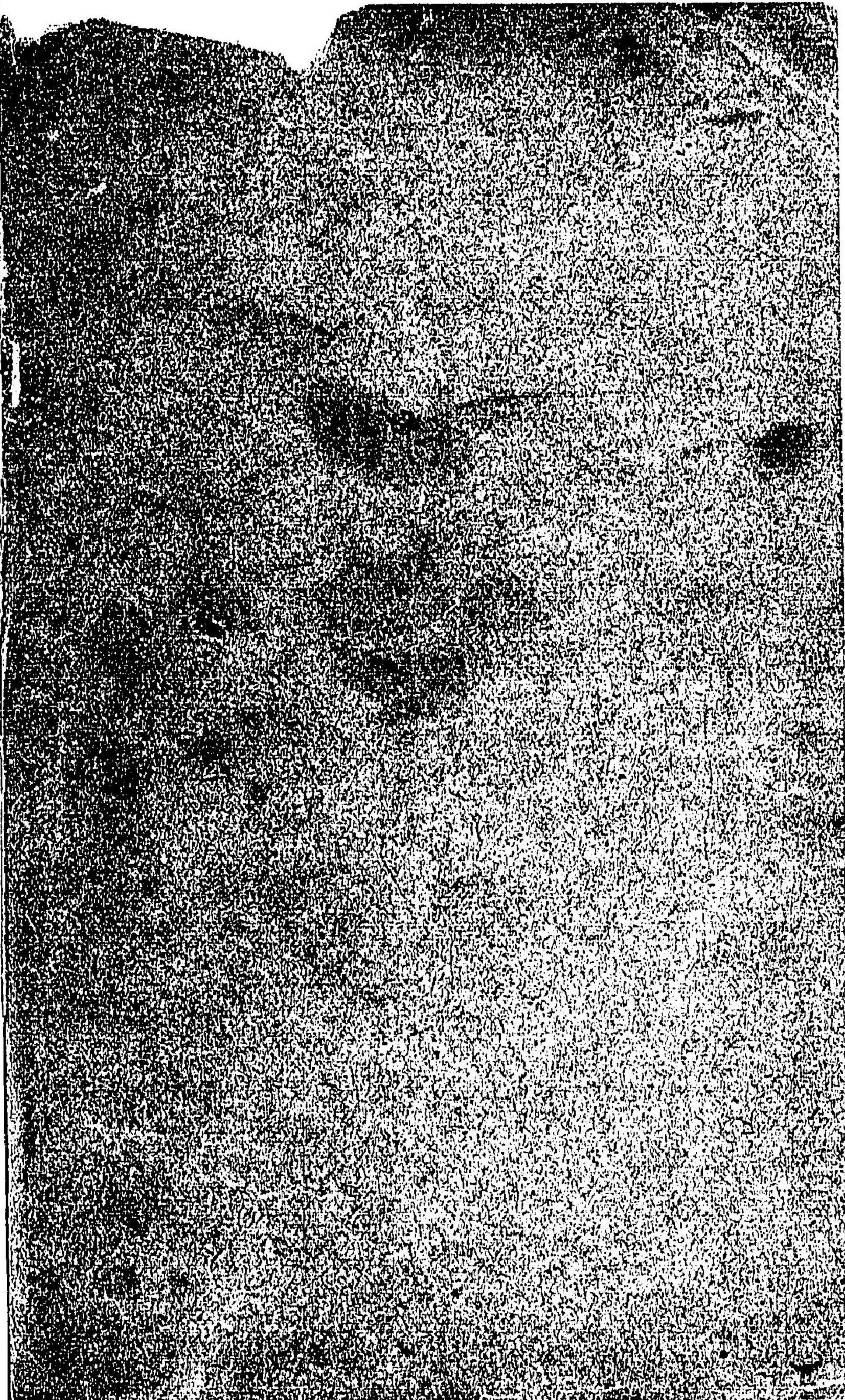
發行所

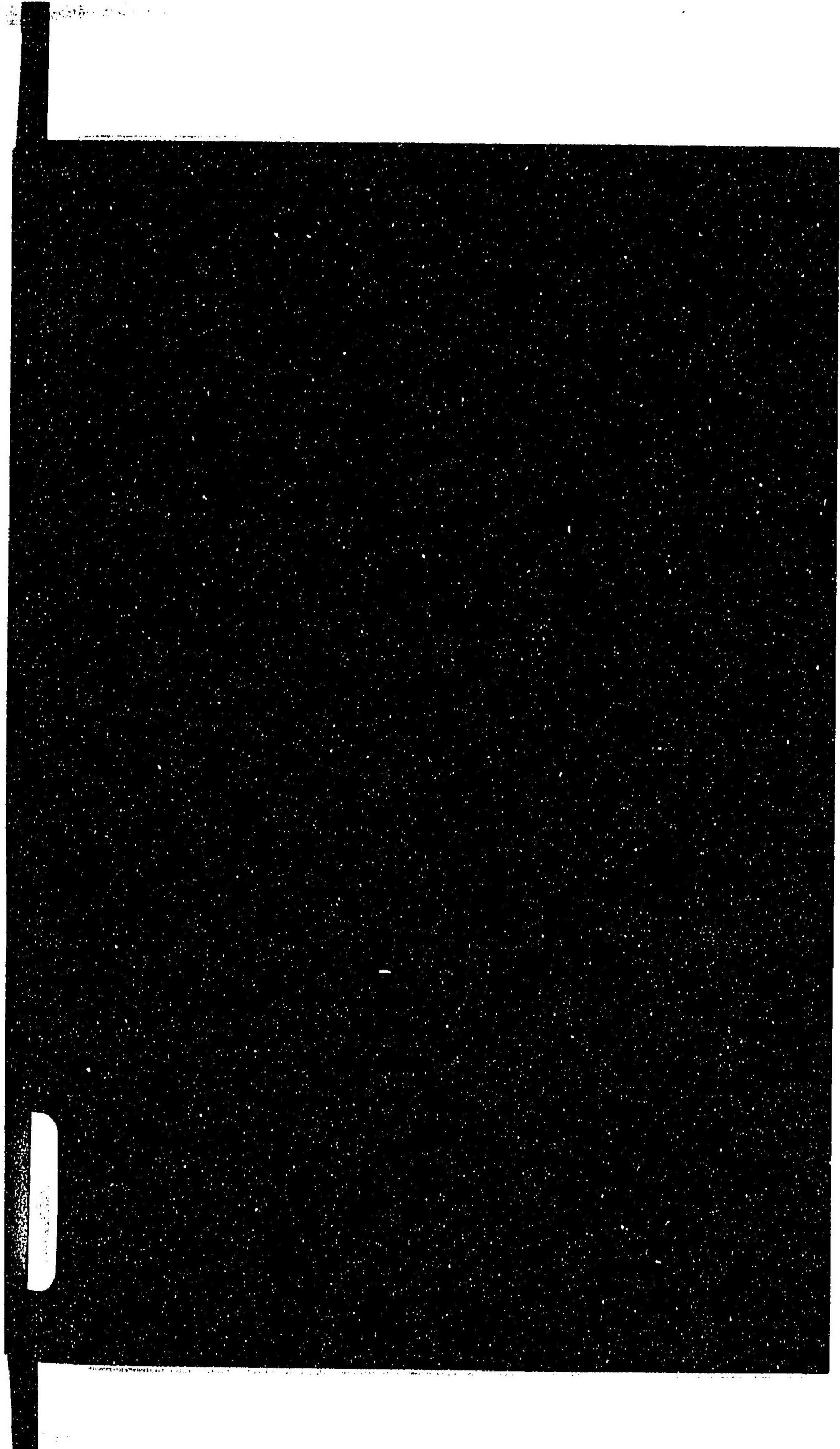
大坂府東區南久寶寺町四丁目九番地  
岡嶋實文館

發行所

大坂府東區備後町四丁目三番地  
岡嶋支店







特14

312

大日本  
帝國 憲法 附屬法 精義

薩埵 正邦 他

国立国会図書館

031687-000-5

特14-312

大日本帝國憲法附屬法精義

薩埵 正邦 / 等著

M22

BBE-0314

